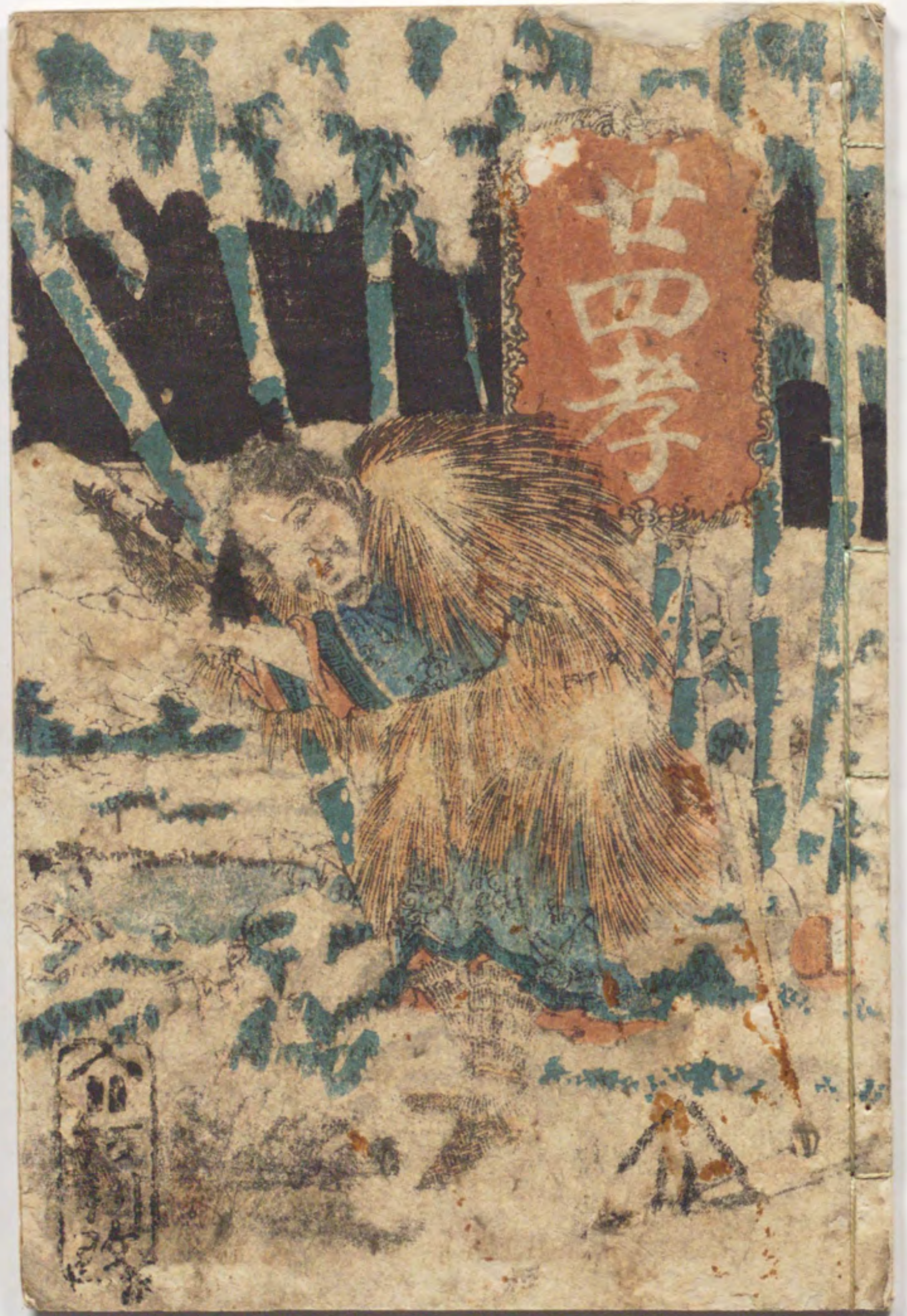

廿四孝

夫孝ハ百行の基ふして上天子より下庶人ふ至るまで孝を以て本とす忠臣ハ孝子の門ふ索むると云り孝經ふ父子の道ハ誠ふ天性自然の道ふして親ハ子をいつくしミ子ハ親ふ敬ひ事て孝を守り奉養すべきなり幼より物学びさせんと思ハヾ先孝道より教ゆべし諺ふも烏ふ反哺の孝あり鳩ふ三枝の礼儀ありと云況や人間ふ於ておや唐國ふてハ孝子みなを詩ふ作り児童のものも常ふ是を唱歌しむと云り其詩古くより倭國ふ傳へて是を二十四孝と云上ハ舜帝文帝を始め下黄香江革が如きふ至迄貴賤の差別なく其身ふ応じて孝道を尽し忠を守ふ教の一助となせり然れども其德ふ異端なきふあらねバ舜の耕をせし禽獣の助くると云るハ其德行と云ふ過言郭巨が子を捨んとせしハ不慈ふ埋んとて黄金を得る孟宗が時ならざるを諫ずして笋を求て食さしむる呉猛が赤裸ふして蚊ふ苦むを双親の患ざる剡子が鹿の皮をまとひて鹿乳を

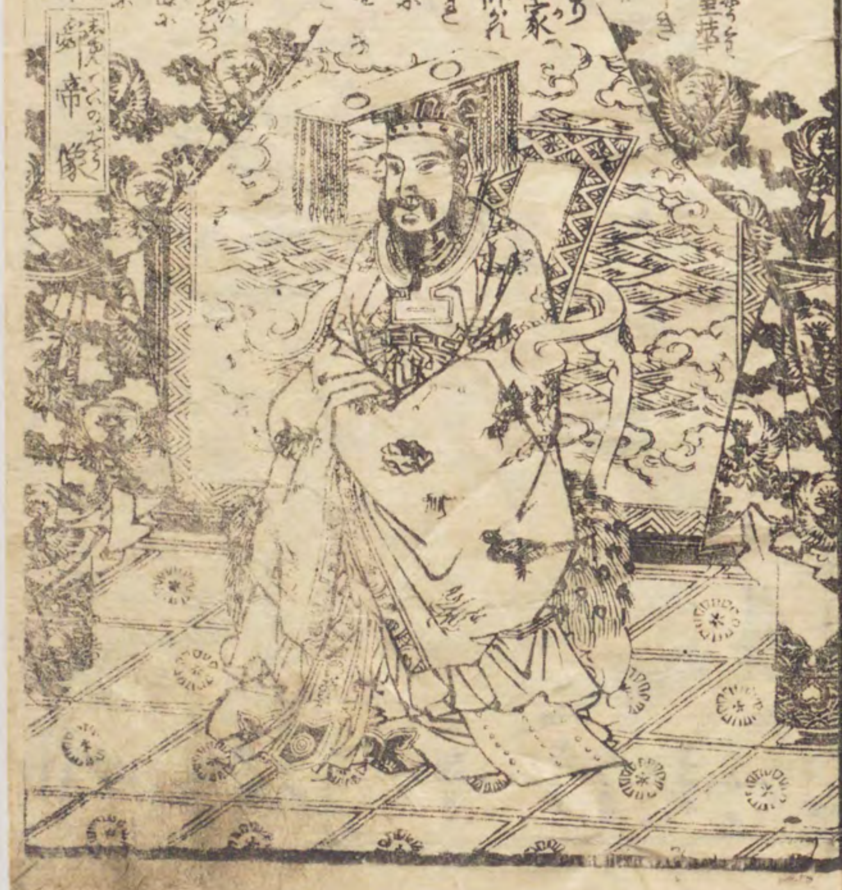
得んとせしなど董永が天女の妻を得る王祥が氷に臥して魚を得の如き各其理論におゐてはしばらく妄説を称するに似たれども従来此一条を以て孝道を勉りとするにハあらず孝子の至誠常の行ひ志の篤実に一事をもつて推ゆる美賞すべきの教なり身を捨て其義を取時ハ神明の㚑感ありて得がたきを得時ならざるを食して病を愈すも皆是天の道に叶ひ神明の感得冥助によるものなれバ凡慮の及ぶ所にあらず徳行をもつて克孝道を務むる者ハ神の霊験必あるなり姜詩唐夫人の如き姑に孝を尽せるハ稀なり婦姑勃谿とて嫁姑ハ必中あしき俗情なると怠ず供養なし孝行なるハ児女の教の捷径なり其の虚実ハ暫措て孝子の名千載の美談となることを羨べし務ても猶勤べきハ孝行の道にぞありける

一筆葊の窓下におゐて

无名翁誌

大舜

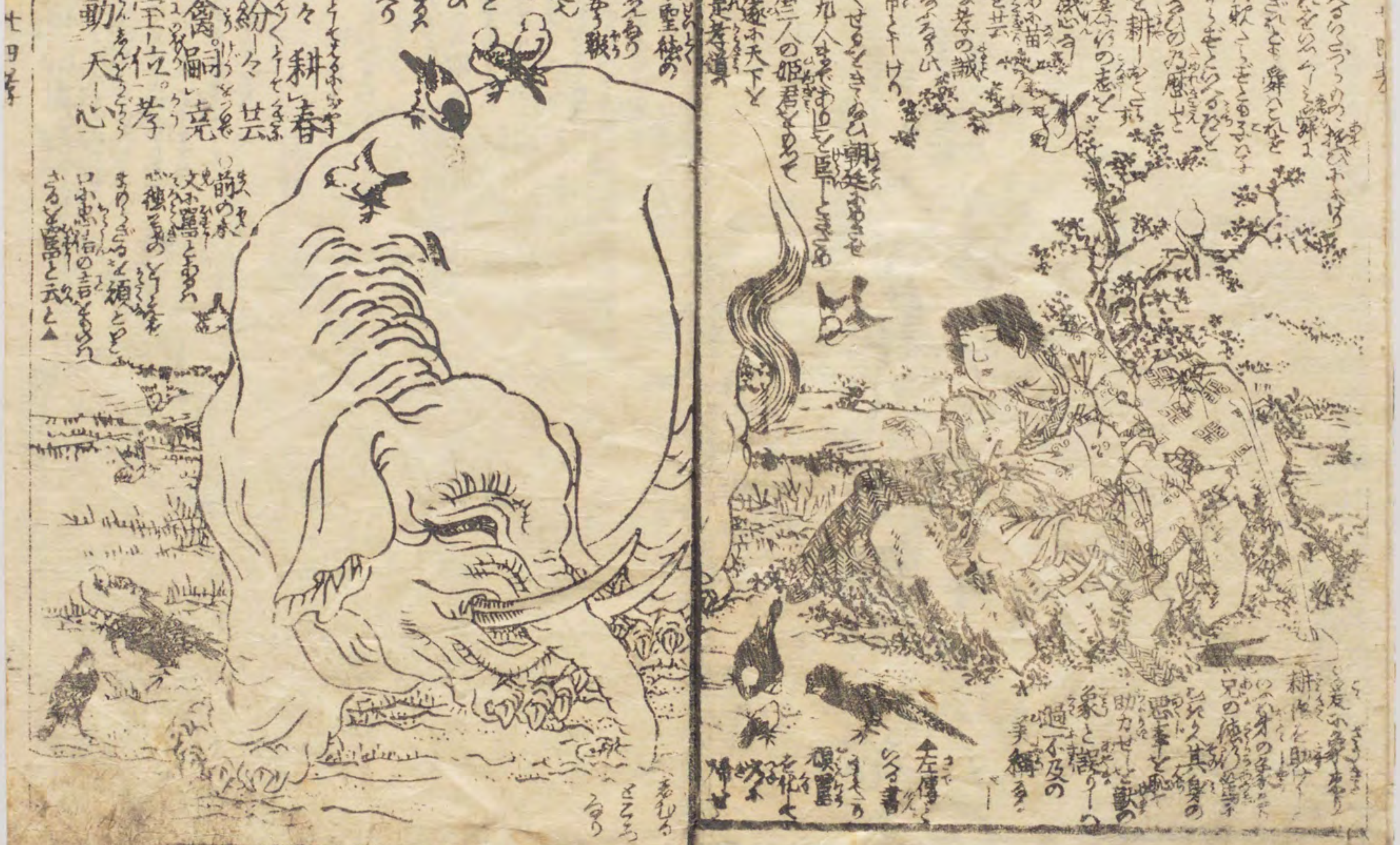
有虞氏帝舜姓ハ姚名ハ重華黄帝の後なりすなハちうまれつき人なれども孝行を尽しあるときついに天下の主となり四海の民を撫育し国家安寧におさまり聖王と仰れ給ふ虞といふところにて産まれ玉ひし虞舜といふのちに天下をたもちてもその代を虞とよびける大舜ハ瞽瞍といふ者の子なりそのゝち母におくれども親につかへて孝をつくしおひけるにその父頑にて[illegible]あてる者てし[illegible]母にあ[illegible]継母へ[illegible]して口に其の[illegible]日夜守りなきをおのれが座けるを



▲弟の象といへるはうつけものにて驕ひおふけり
おごると父母これをいつくしみ舜は
あしざまにいひなされども舜はこれを
ふかくうらみず親は親たらずとも子は子たる
うらまずはあるべからずとおもひなして
孝を父母とやしかの歴山と
いへるところに田を耕しけるに
かゝるふかきその孝行の志を
禽獣までも感じて
象来て舜のために苗
の害になる草を芸
まもりこれみな孝の誠
と天道感動のあまりに
時の天子を堯帝と申けるが
舜の孝行なるをきこしめし朝廷にめさせ
られ天子の御子九人までを臣下となされ
娥皇女英と云二人の姫君をもつて
后妃にそなへて遂に天下を
舜に与へ給ふ是孝道の
天にかなへる所に聖徳の
天下にかゞやきたまふ
めでたくあればなり孝
ありと云へる是也
孔子も天地の
性の人を貴しと
し人の行ひ
孝より大いなるは
なしとのたまへり

詩曰
隊々耕春
象紛々芸
草禽嗣堯
登宝位孝
感動天心

前の
文に囂とあるは
徳義のとをりを
まもらざるを頑といひ
口に忠信の言をいはざる
ざるを囂と云也▲



友に象あり
耕作を助けし
のは才の象にあらず
兄の徳に感じて
それより其身の
悪事を恥て
助力せしと獣の
象と誤りしは
過不及の
美觧なり

左傳に
いへる書
頑嚚
を化して
孝に
帰せ

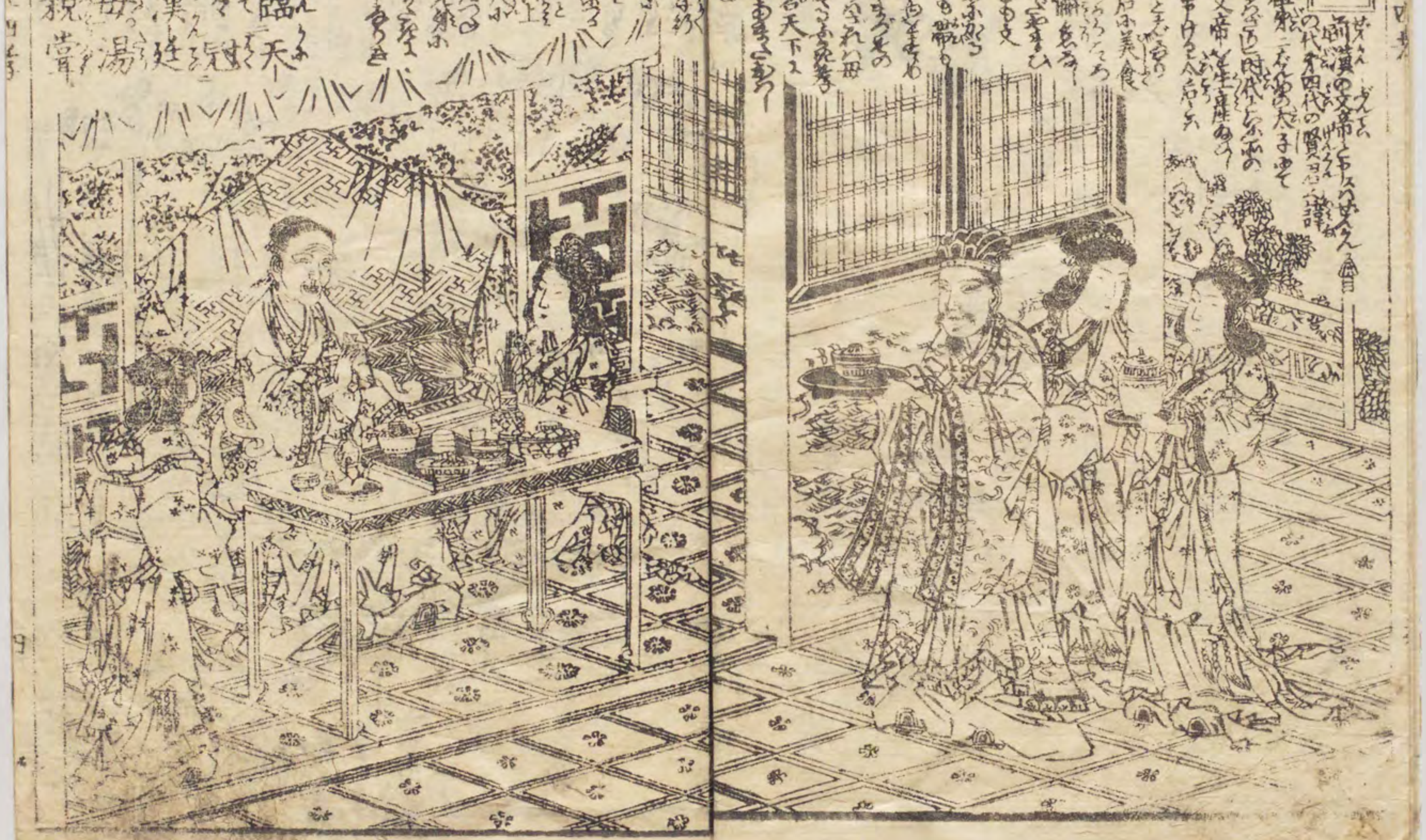
あれなる
ところなり

漢文帝

前漢の文帝と申奉るは漢の代第四代の賢君諱は恒と申けり高祖第二の太子にて始は代王にてありしが後天子となりて文帝と申す生質かしこく母堂を孝養し太后に仕へ給ひ天子の母なるによりていつくしみ深く文帝つねに母の太后に美食をすゝめ給ひ母后の心をなぐさめ給ふ母后二三年がほど病で寝給ひしに文帝昼夜母のそばをはなれず帯をもとかず看病し給ひ湯薬を母にすゝめ給ふにはかならず先みづからなめこゝろみてのち母にすゝめ給ふ此孝行の名天下にきこえて見聞する人感ぜずといふことなし されどもひとへに仁義をおこなひ給ひければ陳平周勃などいふ臣下帝位にすゝめ奉る漢の文帝とぞ申ける天子より下庶人にいたるまで孝の道をわするべからず実に孝行の手本なり

詩曰

仁孝臨天下。巍々冠百王。漢廷事賢母。湯薬必親嘗。

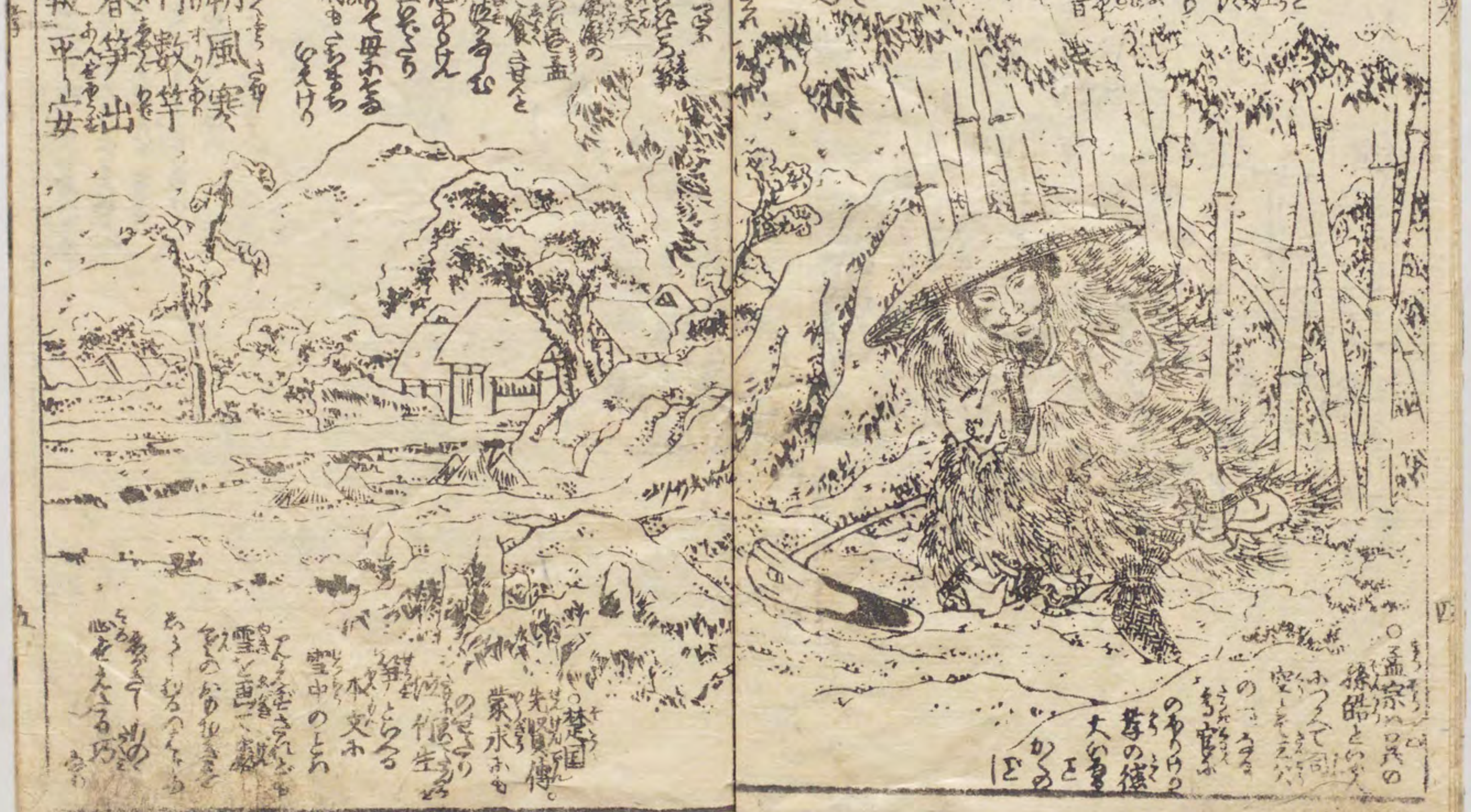


孟宗

晋の孟宗のちに孟仁といふ字ハ恭武と号す江夏といふ所の人也三国の呉より晋の代までを経たり呉の時より李粛といふ者につきて学問を究めつゐに孝行をよくつとむ晋の武帝の時監池司馬といふ官となれり孟宗池をあづかる時其魚をとり鮓をつくり母の方へおくりしに母これをうけずしてかへし魚をおくるを池の官として嫌疑をまぬかれずとて大に戒めぬ孟宗幼き時父におくれひとり其母ハ老衰して常にやまひにふし冬の最中に笋をこのみけるに方地根に帰して時なれば笋あるべきやうもなし孟宗ハ母の望をかなへて食させんと竹林にいりて天に祈り涙をながしかなしみければ天も感応ありけん地中より笋五六本生じたり孟宗よろこびこれをとりて母にあたへければ食しその病もたちまち平癒しけり

詩曰

涙滴朔風寒
蕭々竹数竿
須臾春笋出
天意報平安



○孟宗ハ呉の孫皓といふ人につかへて司空となりたり三公の高官なり孝の徳のありけれ大いなる事かくのごとし

○楚国先賢傳。蒙求にものせたり泣竹生笋とる本文に雪中のとあれど雪と画て冬の[illegible]むるのみなり心をえたる所

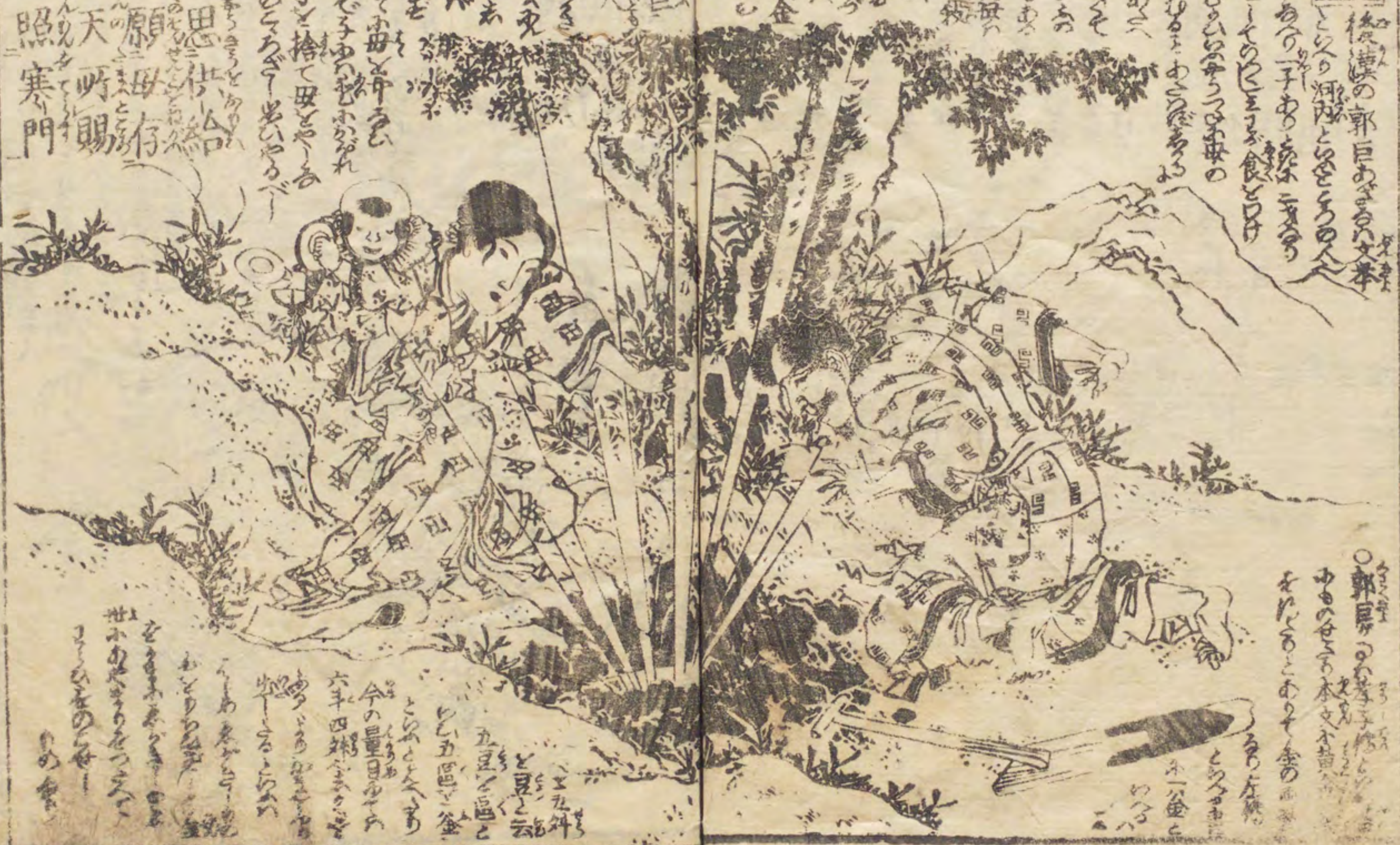
郭巨

後漢の郭巨あざなは文挙といひ河内といふところの人家まづしくて母をやしなひ一子あり三歳なる母つねにその孫を愛してその己まづ食をわけあたへける郭巨つまにむかひていふは母の食を減るぞよまことなるはわが子あるゆゑよとの内とさけんと孫あるてハ母の食減れハ食事をもへらしてそ孫のびたいにあらたまらぬもの子供ハ又まうくることもあるべしわが日々の食を母へあてがはんと夫婦相談しその母事なりしかばあればつまもいなとはいはずしかば穴をほりけるにめでたくあたへけるか天なるかな地をほりて黄金一釜を掘出しけり其上にとふる文字あり

天賜孝子郭巨
官不得奪人
不得取

とありけるを人もとるべからずとなりまことにかうかうなるゆゑぜんのこゝろの見れば郭巨ハ子をうづめずまつたくその母に孝をつくし孝行をつくせしとぞ子をうめるとかきけれ世の人の子を捨て母をやしなふなんとかの孝行のこゝろざしおもひやるべし

詩曰
郭巨思供給
埋子願母存
黄金天所賜
光彩照寒門



○郭巨が孝子傳ならびに
中田の本文不當
それとあるも金の
なり左傳に
とかゝれたる
に一釜と
わかる
八斗五升と云
五豆を區とし
五區を釜
とらふとなる
今の量目ならば
六斗四升なるべし
かくのごとし
なれども
これも
それより
世におなじき
をかしきの〔?〕

楊香

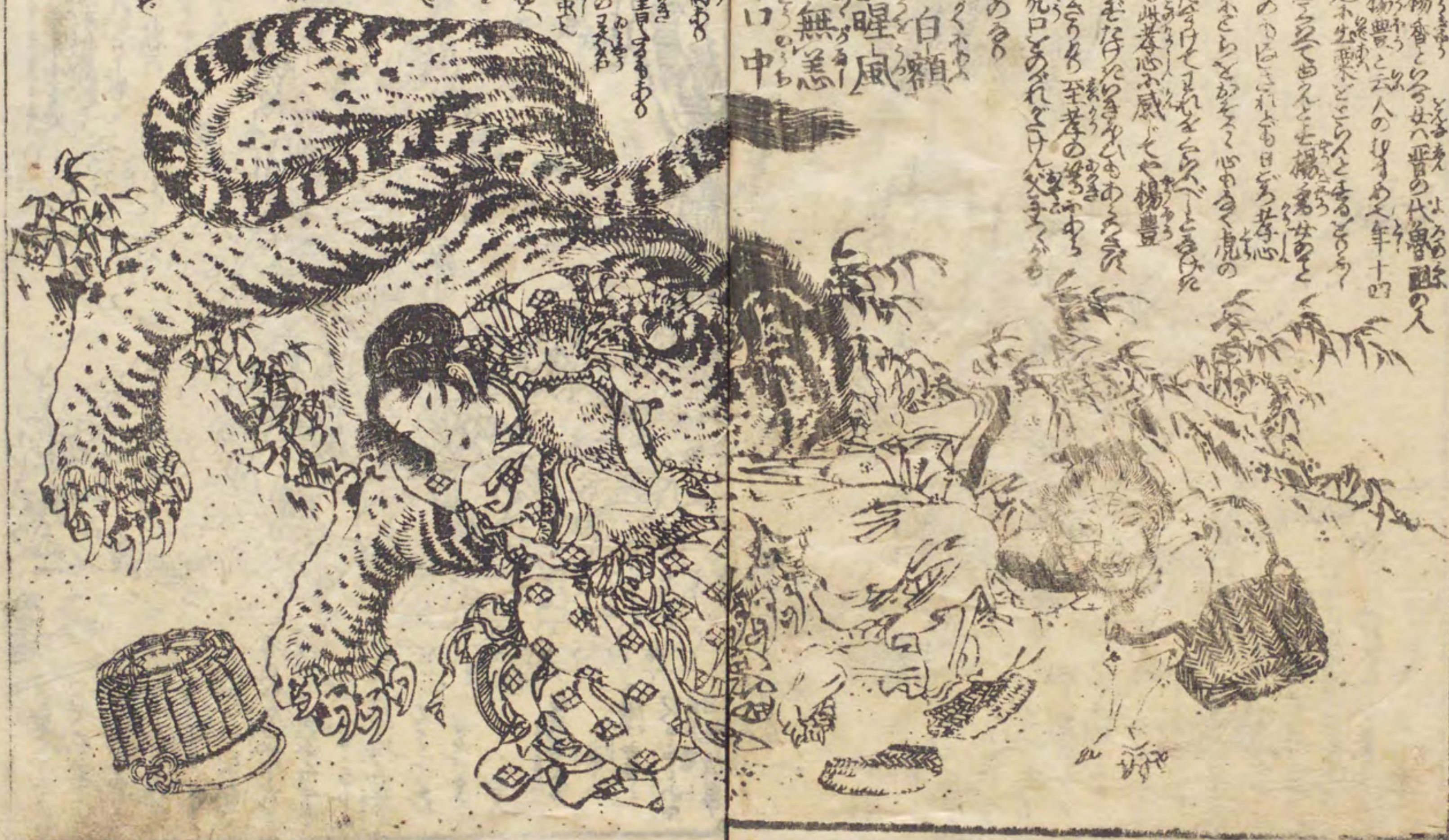
楊香といふ者ハ晋の代魯郡の人楊豊と云人のむすめ也年十四の時田園といふて耕地に出粟などをとらんとするところへ猛虎来りて父を喰んとせし楊香女なれどされバ手に一寸のきれものもたざれども日ごろ孝心あつきものなれバちゝが身をとらんとおそれて心もなく虎のひげにとりつき父をたすけてすれども虎くらふべしとしけれされバたけき虎なれども此孝心に感じてや楊豊を害さず[illegible]尾をたれて山のおくへにげさりける至孝の徳にあらざれバ命あやうき虎口をのがれ[illegible]これ孝行の徳によるものなり

詩曰

深山逢白額　努力搏腥風
父子倶無恙　脱離饞口中

此詩結の一章異同あり脱身饞口中と書するもあり白額腥風ともに虎の事なり恙ハ人を害する虫也昔ハこの虫ありて人をなやませし也遠くてとふものゝあいさつにまづつゝがなきやと云なりとぞ

○楊香が其所の大守孟[illegible]之といふ人この事を聞て大いに稱歎し楊香に米あまたとらせて孝行を尽さしめけるとぞ



董永（とうゑい）

後漢（ごかん）の董永（とうゑい）幼（いとけな）き時（とき）[illegible]家（いへ）貧窮（ひんきう）にておさなき時母におくれ父と二人老（おい）て足（あし）たゝず車（くるま）にのせて田のあぜのもとへつれ出て[illegible]やしなひながらその身ハ人にやとはれみづからのちんせんをもつて孝行（かうかう）をつくしける父死して葬（さう）することあたはず朝夕（あさゆふ）とゝろて主人（しゆじん）にからだ一生（いつしやう）の身をうり入れて銭（ぜに）をかりてそうれいをとりおこなひて機（はた）をおるらめふらてゆくみちにて一人の美女（びぢよ）にあひたの人ハわがつまとなりてともに主人の家へゆき[illegible]なり今宵より[illegible]人に[illegible]なれバ主人の[illegible]けれどもきりぜひなく[illegible]て主人の家に到るかくてその日[illegible]つけれバ主人の女房が[illegible]縑（けん）三百疋おりすへ[illegible]とあどを[illegible]べしと[illegible]女一月[illegible]三百疋を織（お）へしされバかたる孝心の[illegible]夫婦（ふうふ）となりてそのまゝ[illegible]けり

詩曰

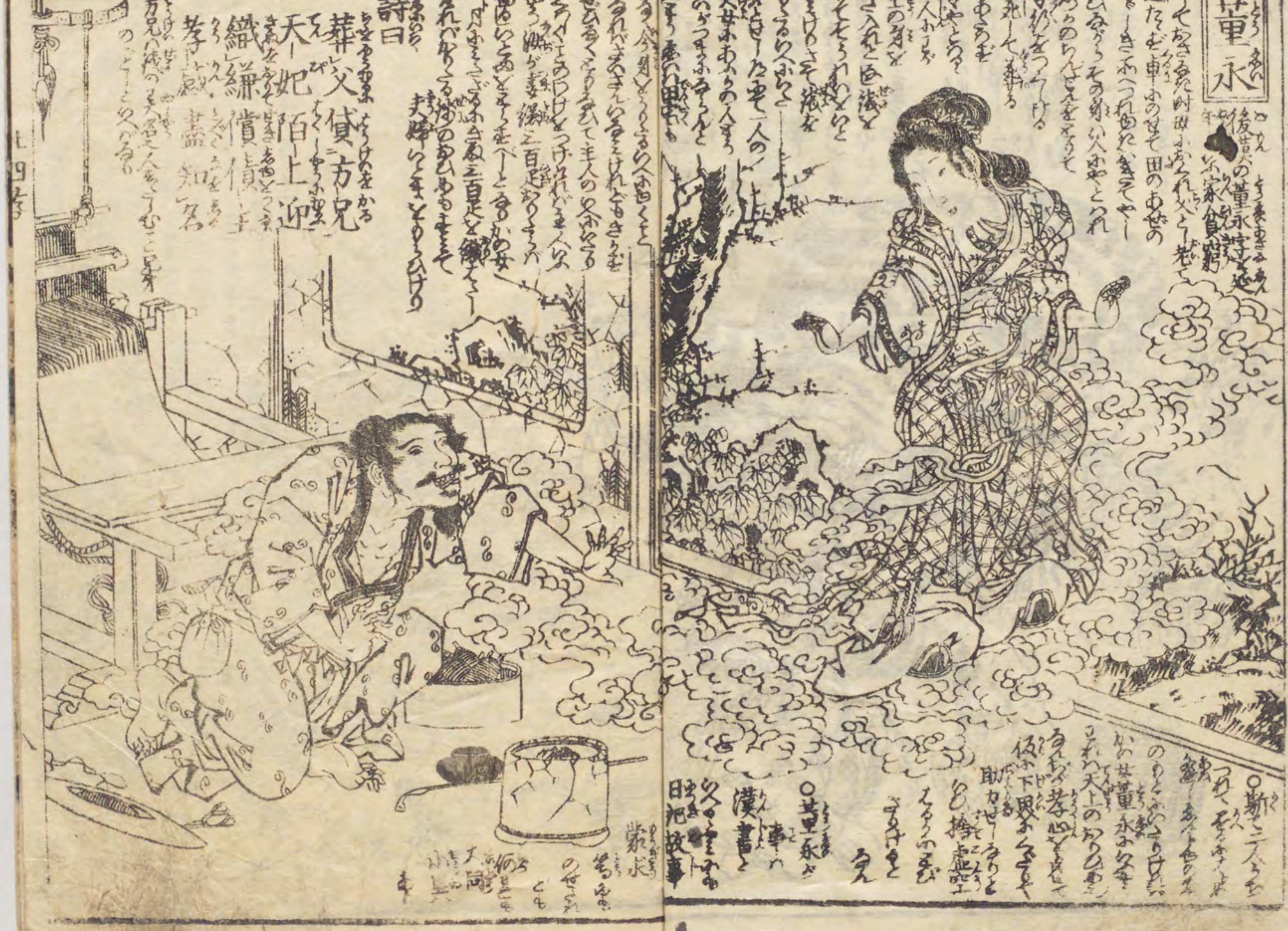
葬（さう）レ父（ちゝ）貸（かる）ニ方兄（はうけい）ニ
天妃（てんぴ）陌上（はくじやう）迎（むかふ）
織（おり）レ縑（けん）償（つくのふ）ニ債主（さいしゆ）ニ
孝感（かうかん）蓋（けだし）知（しる）レ名（な）

ちゝをさうするにかねをかる　[illegible]
[illegible]
[illegible]

○斯（かく）[illegible]つれて[illegible]のものにも[illegible]かの女董永が妻（つま）これハ天上の[illegible]董永が孝心をかんじて[illegible]下界（げかい）にくだり[illegible]助（たす）けさせ[illegible]捨（すて）[illegible]ちりのはて[illegible]ぞ[illegible]

○董永（とうゑい）が事ハ漢書（かんじよ）とそのほか日記故事（にきこじ）[illegible]

紫求（？）[illegible]のせられども[illegible]

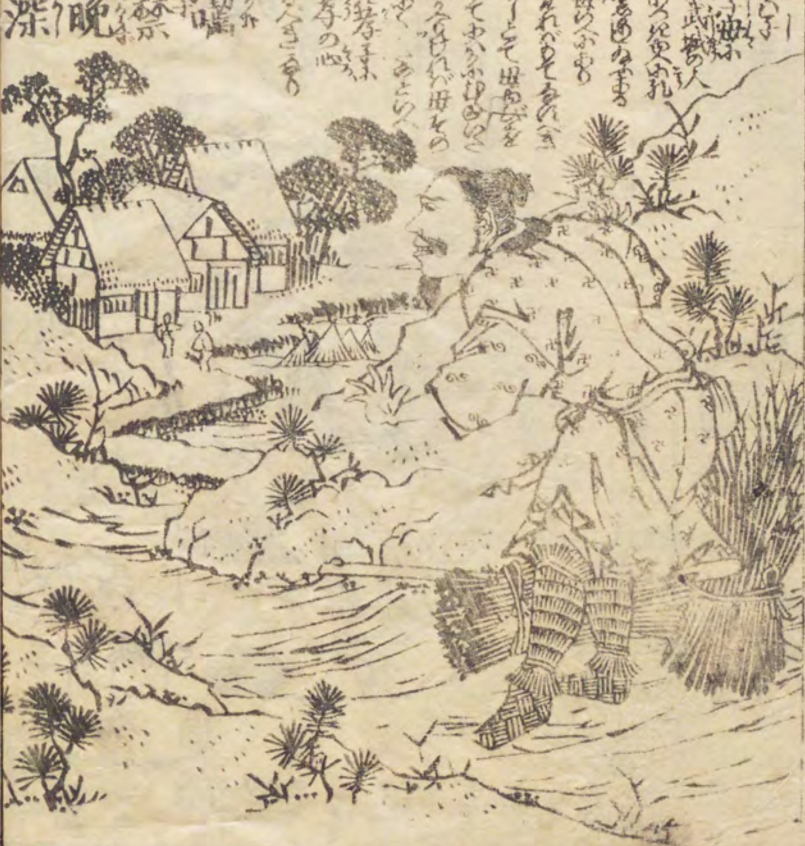


曽参

周の曽参字ハ子輿といふ父の曽晳ハ魯国の南武城の人至極の孝行なり孔子の高弟にて心に孝を専らにし孔子も道統の器なりとて孝経といふ書を著したまふ或時曽参山へ薪を採に行し留守に母のもとへ客来りけれども曽参ハ内にあらず母ハ[illegible]指を噛みけれバ曽参山にて[illegible]胸さわぎしけれバ急ぎ家に帰りけれバ母その由を語りける[illegible]家の貧しさ[illegible]至孝の心ふかきゆゑなり[illegible]

詩曰

母指纔方囓
児心痛不禁
負薪帰未晩
骨肉至情深



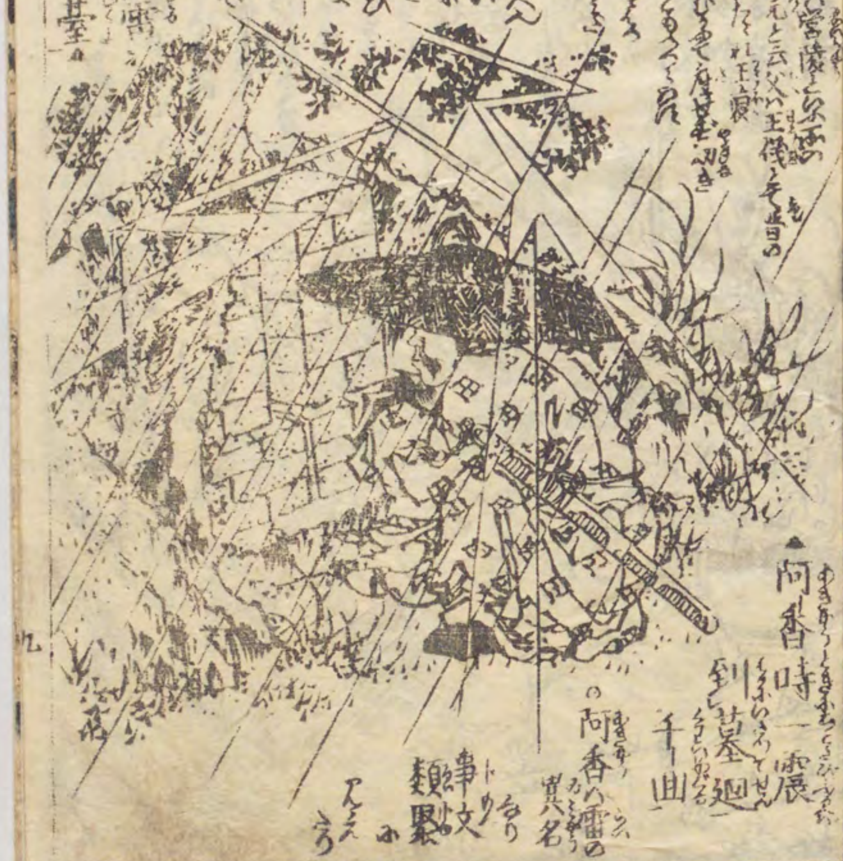
王裒

魏の王裒ハ営陵と云ふ所の人字ハ偉元と云ふ父ハ王儀とて晋の文帝につかへしが罪なくして殺されけれバ王裒これを恨み一生の内晋の方へむかひて坐せず墓所のかたはらにありて柏を攀て泣ければ涙かゝりて[illegible]の木もかれたりとぞ母ハ生得雷をおそれし人なれバ母の死して後も雷のなる時ハ王裒墓に走りゆきて世にある時のごとく母に我こゝにありとなぐさめける[illegible]雷のなるまでさらざるとなりまことに孝心のふかき事と知るべし[illegible]

詩曰

慈母怕聞雷
氷魂宿夜臺
阿香時一震
到墓廻千回

○阿香ハ雷の異名なり事ハ韓文類聚にみえたり



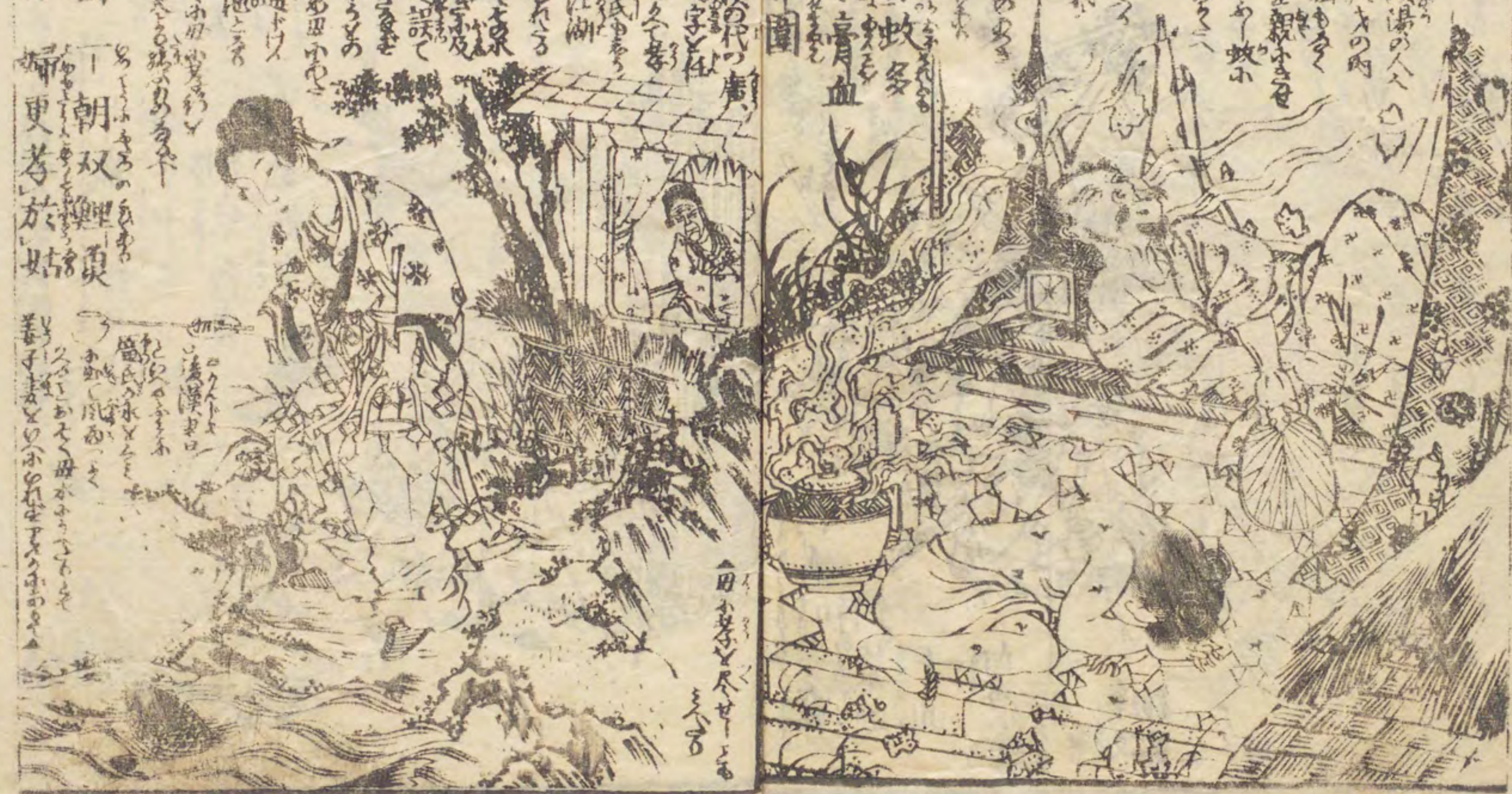
呉猛

晋の呉猛字ハ世雲と云濮陽の人也少きより孝行の心ありしへ其の内夏になれども家貧しくして蚊帳もなくよるになれバ蚊多けれバ衣を親にきせおのれハはだかになりて身を蚊にあたへ蚊にあくまでくらハせけれバ親の方へハ蚊のよらざるやうにとかくれずしかも其身ハ蚊にくらハるゝをいとハずぞとなり父母死してその後丁義といふ仙人に逢て仙法をならひしとぞ是ひとへに孝行のゆゑなり

[illegible]

詩曰

夏夜無帷帳
蚊多不敢揮
恣渠膏血飽
免使入親闈



一母に孝を尽せしとなり

姜詩

姜詩ハ後漢の代の廣漢と云所の人也字を仕遊と云父をはやく失ひ一人の母に仕へ孝行あつく其妻ハ龐氏と申ける [illegible] 江湖の水を好み [illegible] 二十町 [illegible] 江の水を [illegible] 龐氏 [illegible] 或時風はげしく [illegible] 江湖へ入て [illegible] 学問の [illegible] 姑へ孝行 [illegible] 夫婦の [illegible] 孝行の心ざし天に通じけん [illegible] 其家の傍に江湖の水 [illegible] 地より [illegible] 鯉わきて [illegible] 婦 [illegible]

詩曰

舍側甘泉出
一朝双鯉魚
子能知事母
婦更孝於姑

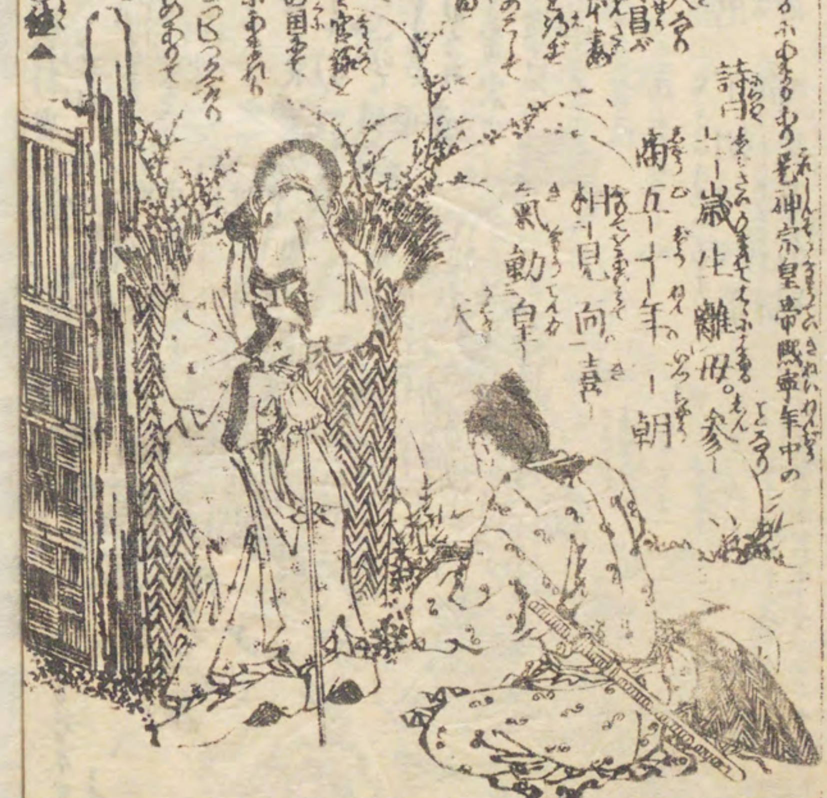
後漢書曰 [illegible] 龐氏 [illegible]

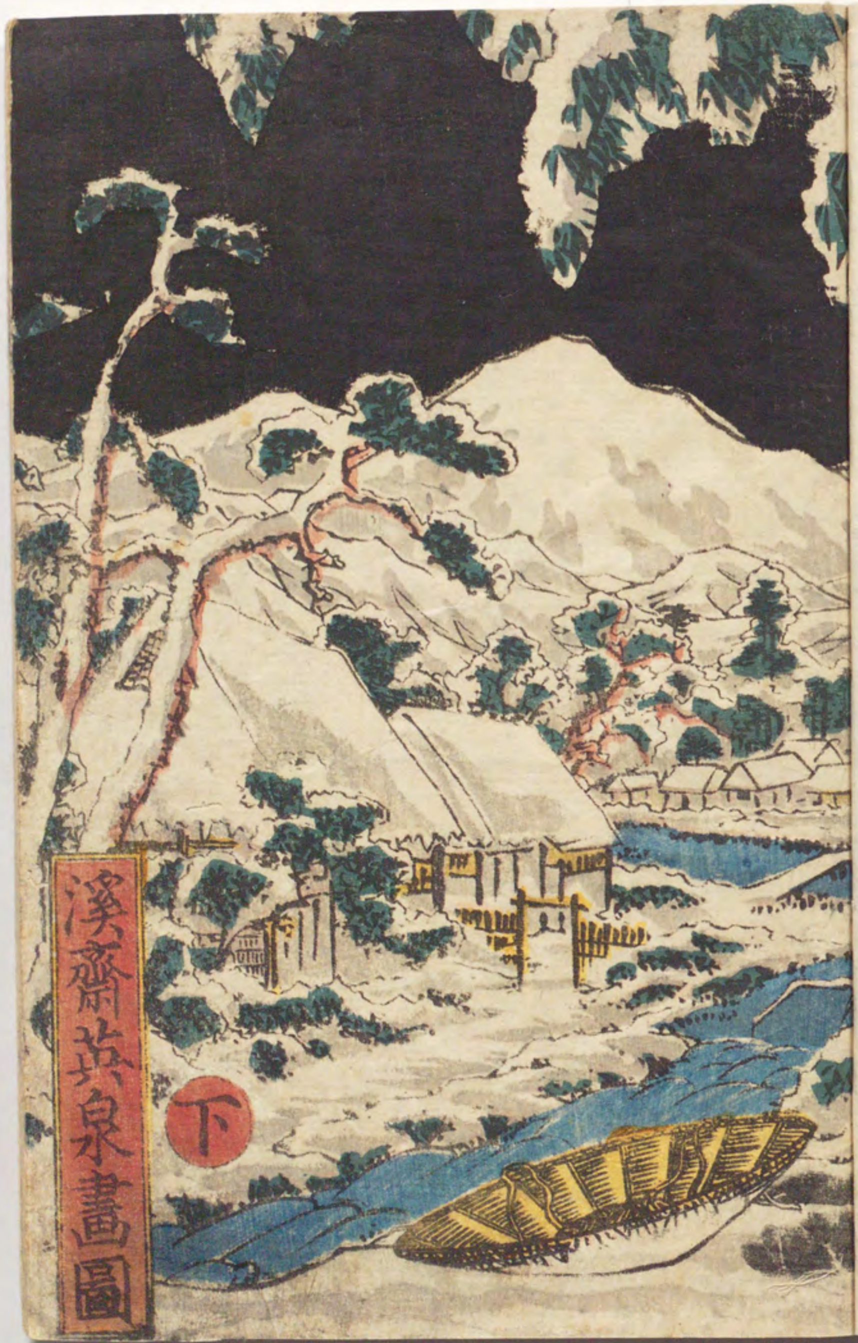
朱寿昌

▲賛 [illegible]神宗皇帝熙寧年中のことなり

詩曰
七歳生離母。参
商五十年一朝
相見面一喜
氣動皇天

宋の朱寿昌ハ天長の代の人なり父ハ雍州の官人なる寿昌が母ハ劉氏のむすめなりが本妻の妬つよきにより家に止ことを得ず寿昌が七歳のときこれをのぞけて他の人へかたづきし寿昌成長して神宗帝につかへされども産の母をしたひて一日も孝養をせざるを歎き官職をすてゝ母をたづねまゐりて秦の国にてたづねあひその時母の年七十にあまれり[illegible]歓びて孝をつくしける[illegible]神宗帝に[illegible]めしありて[illegible]めでたく[illegible]至孝の徳▲

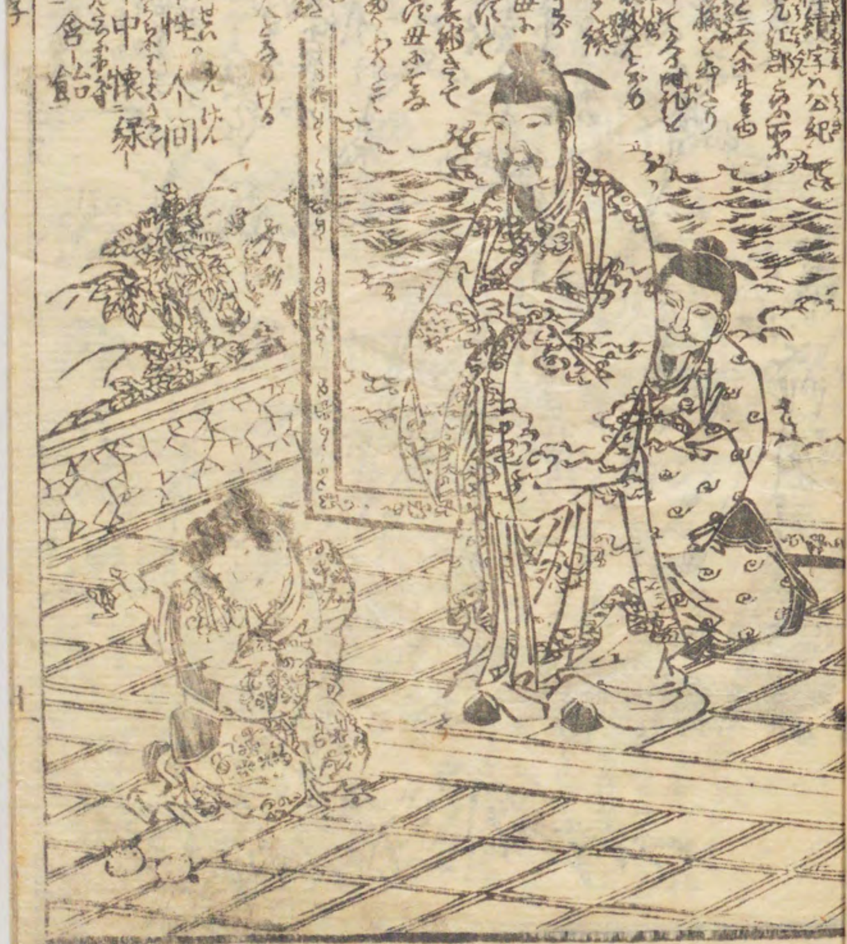



溪齋英泉畫圖
下

陸績

後漢の陸績（字ハ公紀）年六歳の時九江郡に於て
袁術と云人に見ゆ
袁術陸績のもてなしに橘を出
しける陸績其内三を懐にて暇乞しと
き懐よりおとしければ袁術是を見てとがめ
幼とて非禮なりと云を陸績
跪て答て申すやう是は
母橘を好めり以て入て母に
あたへんと思ひて懐にして
かへらんとすと言ければ袁術さても
六才の小児なる身にてかほど母に孝ある
へんとする孝子なりと大に感じて
賞られしと也陸績の名
たかく世に聞えて［illegible］
となりける

詩曰
孝悌皆天性　人間
六歳兒　袖中懷緑
橘　遺母報含
飴



王祥

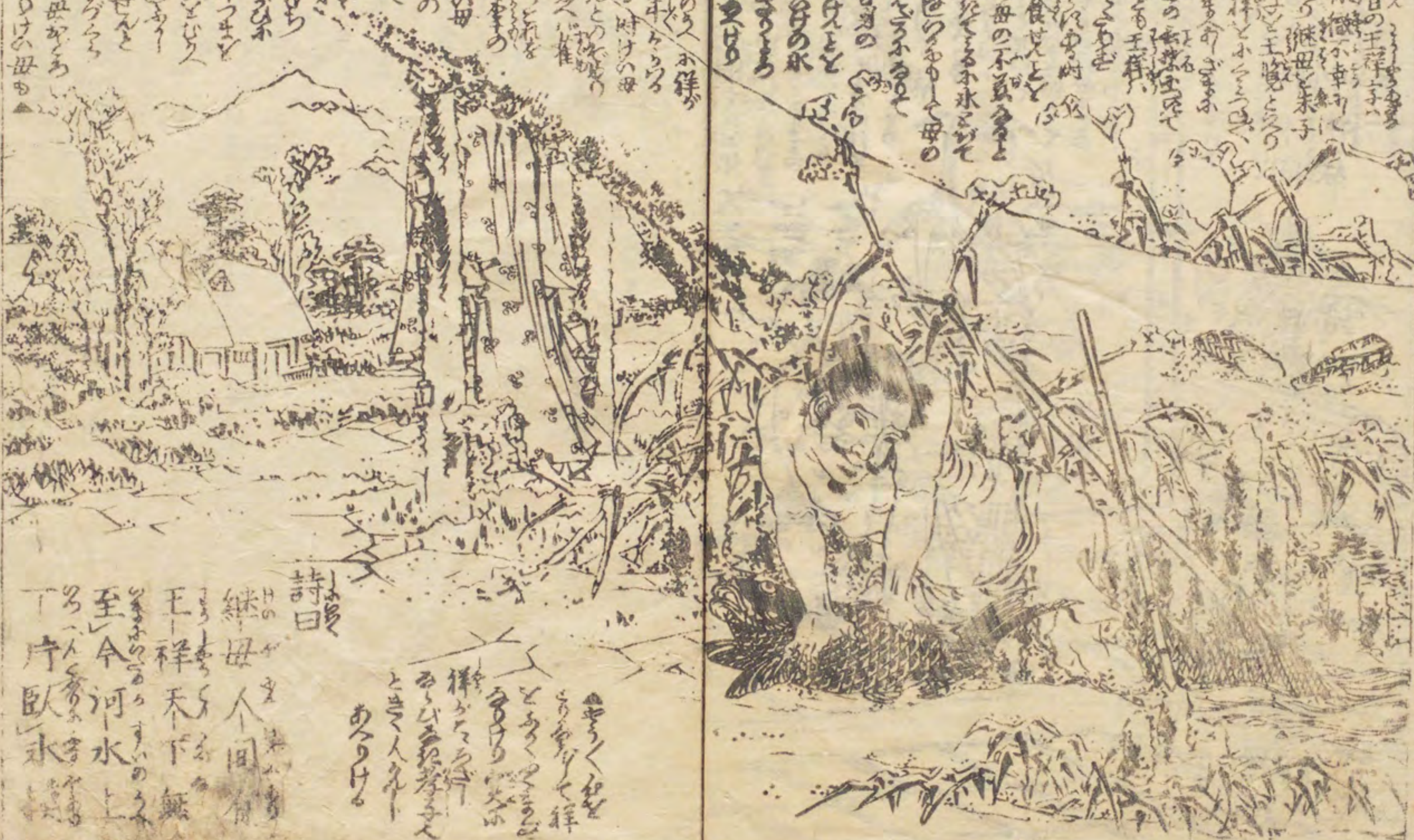
晋の王祥字ハ休徴不幸にしてはやく生母を失へり継母を朱子と云其母のうミし子を王覧と云り母継子とにくミし祥とつねにそしりて父のまへあしく讒をかまへあしざまにいひければ父ハ継母の讒を信じて祥をうとミけれども王祥ハ孝のこゝろざしをわすれず父母わづらひておこたらず時母冬月に生魚を食せんことをのぞミあり祥ハ日ごろ母の不慈なるをもいとはず池にゆきてみるに氷とぢて更に魚をとるべき便もなくして母のねがひをかなへんとおもひ衣をぬぎて氷の上にふしたるにわが身のあつさにて氷のとけんことを思ふ孝心天につうじて池の氷とけて鯉二ツおどり出ければとりかへりて母にそなへけり

それよりかの池の氷のうへに祥がふしたる形のこりて年ごとにあらはるこゝにとゞまり又ある時けいの母また[illegible]黄雀の祥これをとらへんと思へバ雀四五十羽がとびいりけるをとれをありて母にそなへ又柰の実をまもらすべしとけい母祥にまかせしに風雨のひハ木にいだきつきてなげけバあやしやつひに実おちざりしとぞ祥が孝五六年の間母祥をねたみろうことあれバ祥がそバに[illegible]祥つまをめとりて[illegible]うらみ孝のこゝろふかくして[illegible]母祥をころさんとせしを[illegible]これよりのちハ母も▲

▲やうやく邪をあらためて祥をふかくいつくしミければ父に祥がたてたる行ならびなき孝子なりと世人いひあへりける

詩曰

継母人間有
王祥天下無
至今河水上
一片臥氷

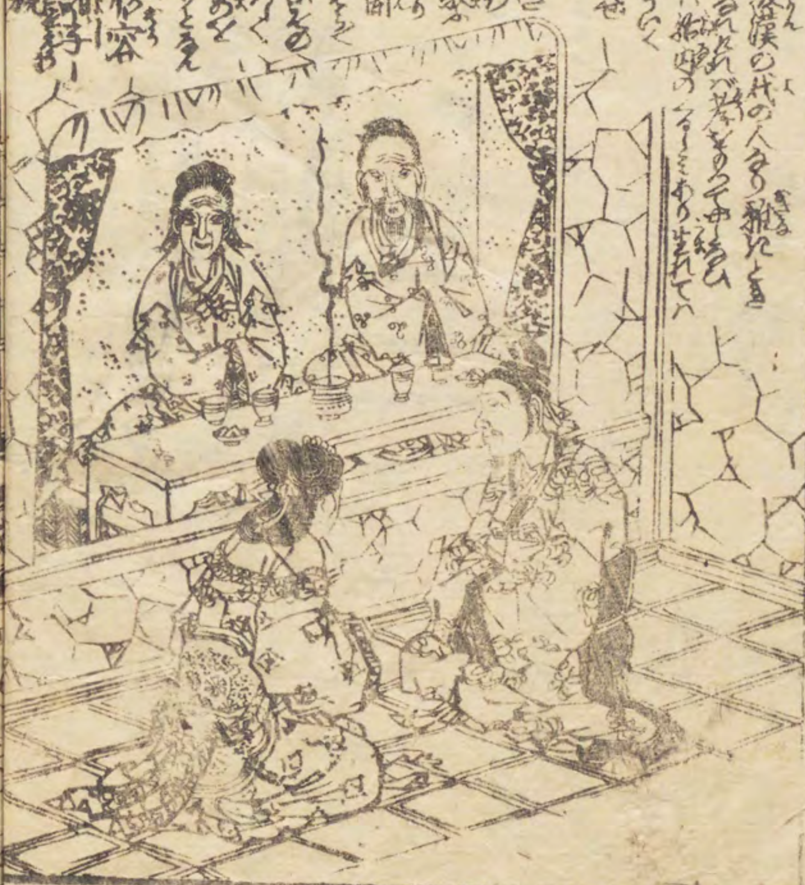


丁蘭

丁蘭は後漢の代の人なり稚きとき二親におくれければ孝を[illegible]生れては
つかふること[illegible]母の[illegible]
懐哺のうち[illegible]父母[illegible]やうやく
の[illegible]
[illegible]父母のすがたを木にきざみて[illegible]
[illegible]孝行
[illegible]蘭が妻[illegible]
[illegible]
[illegible]蘭
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]つくす蘭[illegible]その妻を
[illegible]

詩曰

刻木為父母。形容
在日身寄言諸子
姪各要孝其親

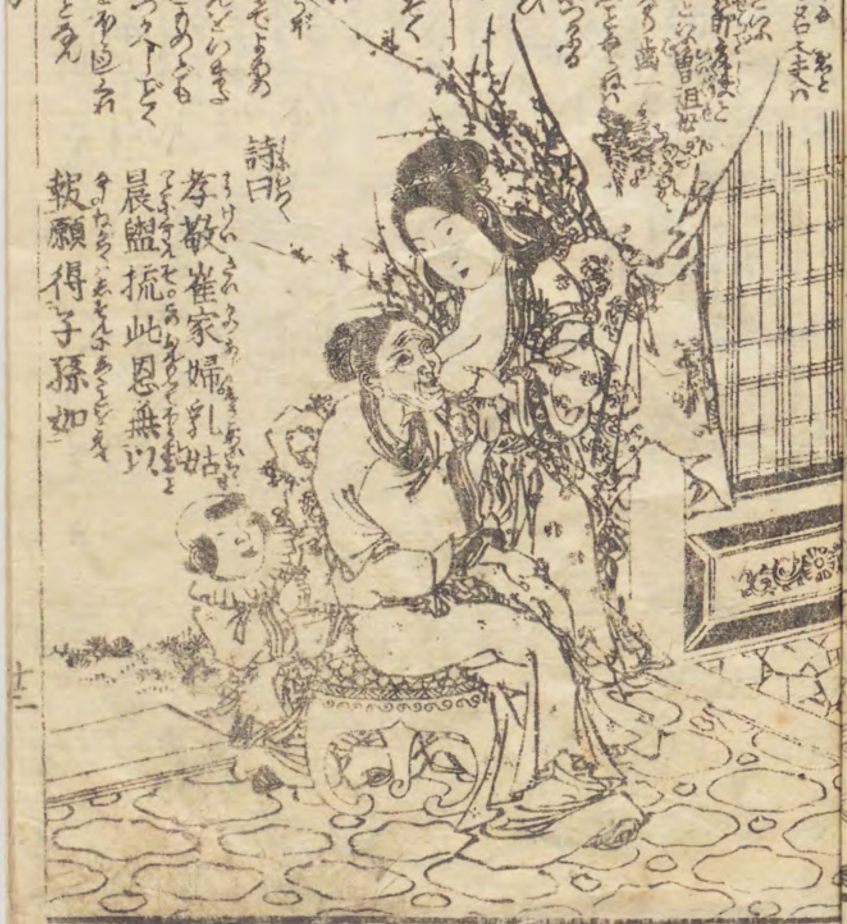


唐婦人

唐は代の名也[illegible]
博陵の人也山南西道の節度使と
云官になりし崔山南が曽祖母
は長孫夫人とて既に年たけ歯一つもなし
[illegible]
婦の唐婦人[illegible]
[illegible]毎日[illegible]
[illegible]
乳をのませて[illegible]
四五年[illegible]
[illegible]長孫夫人
老病[illegible]
[illegible]
[illegible]これまでよめの
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]孝行[illegible]
よといひおかれて死しけると也

詩曰

孝敬崔家婦乳姑
晨盥梳此恩無以
報願得子孫如

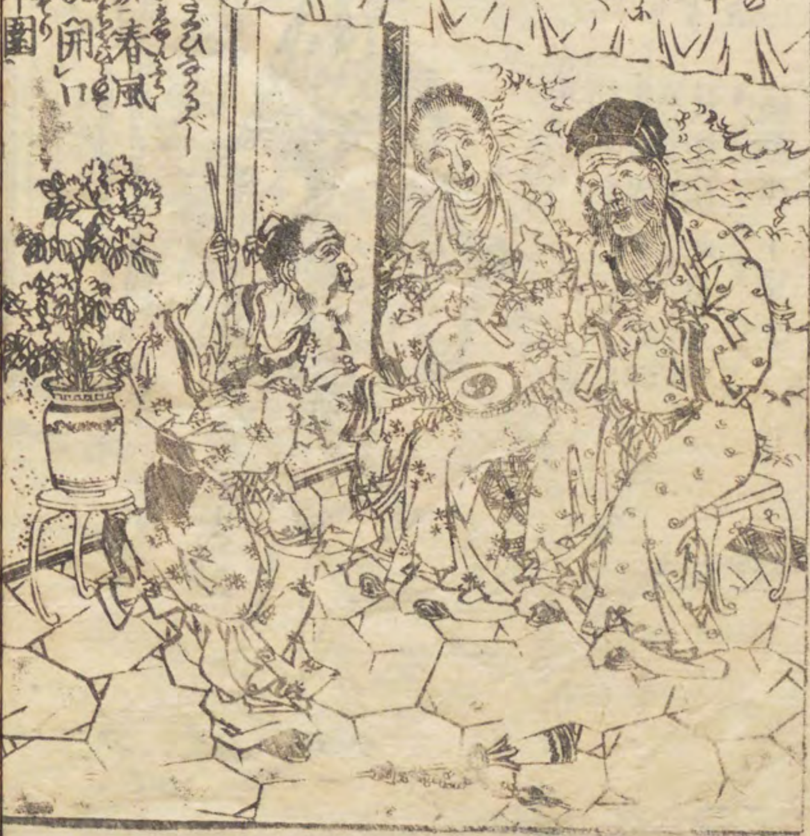


老莱子

老莱子ハ周の代の人年七十にて父母とのそりおやにつかふるにつねによくおもてもこどものごとく七十にあまれどもおいたるといはずよくもてあそびてけも色あそびたいしなれをもちておやを見ことさらになげきとつまづきたふれてなからるのわかきときでものごとくなきなかしおやにえみそえみきなれやかのつかうまつるおいてよめあいくまり身もたのしむまたかくらうらいしんちゆう中せ衣の孝心ふかきことをしりぬべしよく身をとえとつとめて至孝の徳しるひとつろべし

詩曰

戯舞学嬌痴。春風動綵衣。双親開口笑。喜色満庭闈

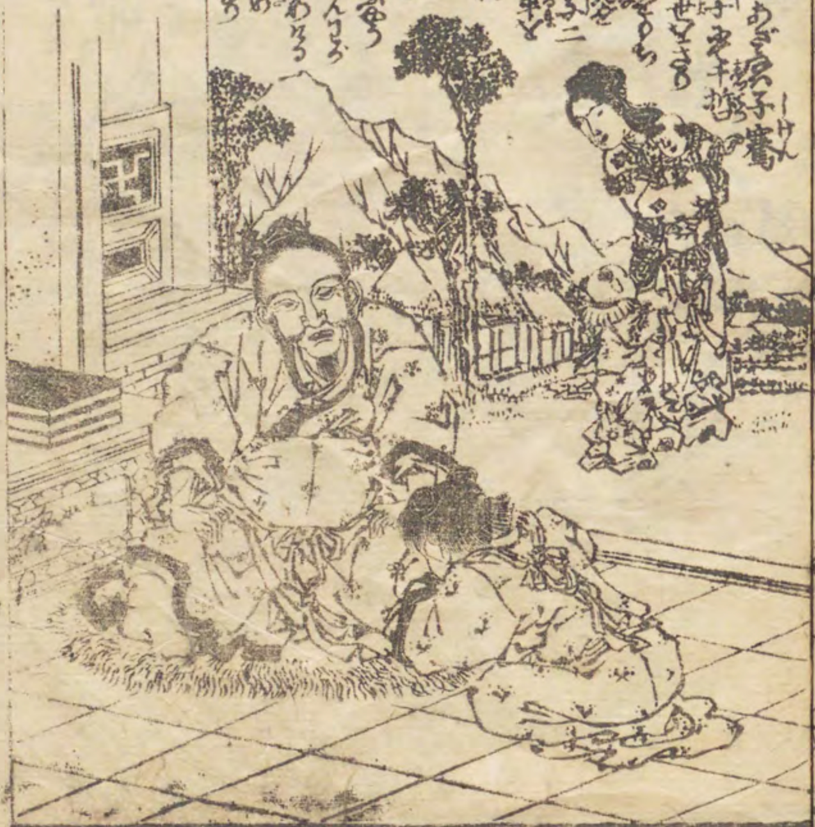


閔子騫

閔子騫ハ周の閔損あざな子騫孔子の弟子十哲の其一人なり子騫が母はやく世をさり父継母をむかへて又後の母子二人をもちて我子をいつくしみ子騫をにくみ芦の穂を衣服に入れてびんしけんにきせけり実子二人には綿を入れてあたゝかなる衣をきせける父車をひかせけるにさむさのあまりの手綱をとりおとしけるを父見て衣をひきかへりみれば芦の穂なれば父も継母のむごきを見て今母をさらんとするに子騫がなみだをながしてこひけるは母今ましまさバ子ども三人はさむかるべしさり給はゞ三人とも寒からん一人ハ寒くとも二人はあたゝかなるべしとなげきければ継母も此ことばをきゝて心をあらため後ハ父母共に子騫を孝行なる子とおもひける

詩曰

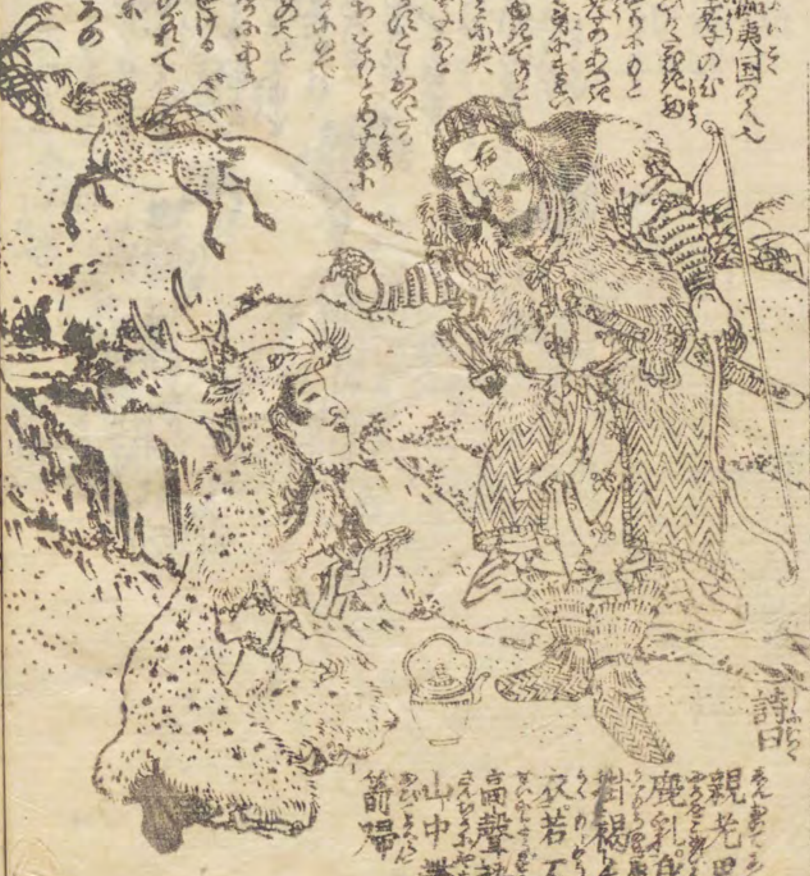
閔子有騫郎。何曽怨晩娘。尊前留母在。三子免風霜



七四孝

剡子

周の剡子ハ郯夷国の人也そのおや老ぬれバ至孝の心ふかく父母年よりてともに両眼をわづらひ鹿の乳をのまほしくおもへり剡子孝のあまりあるとき鹿の皮を身にきて鹿のむれにまじハり山ふかく分入鹿の乳をとらんとせしに猟人これを見てまことの鹿と思ひ弓に矢をつがへすでに射んとせしかバ剡子声をあげて我ハまことの鹿にあらず父母眼の病ありて鹿の乳をのぞみ給ふゆへかくのごとくしてまいりたるなりとかたりければ猟人もおどろきてその孝心を感じけるかゝる孝心の深きをあはれみて天のめぐみありしとなり [illegible]

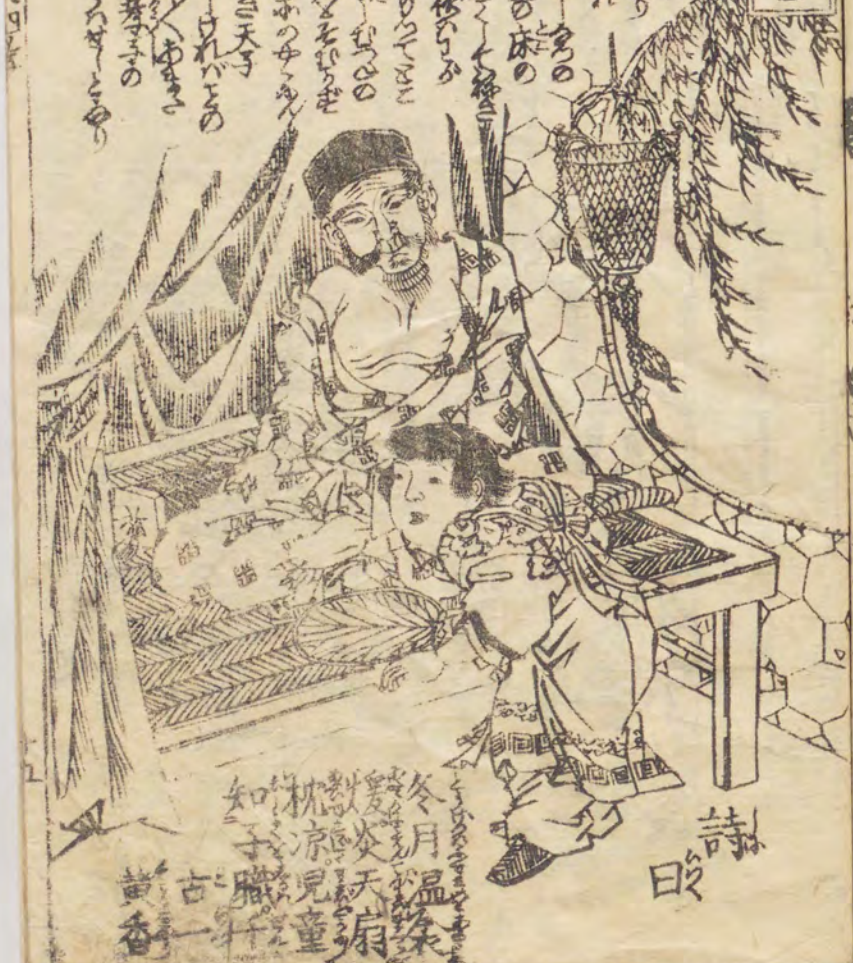


詩曰

親老思
鹿乳身
掛褐毛
衣若不
高聲語
山中帯
箭帰

黄香

後漢の黄香あざな文彊と云江夏安陸の人なり九さいの時母におくれ父につかへて孝心ふかし夏のあつき時ハ父の床のうちをあふぎてすゞしくし寒き冬の夜ハおのが身にて父の衾をあたゝめてねさせまいらせけるかゝる孝行なれば太守劉護と云人札をたてゝその孝をあらハせり和帝の御時天子これをきこしめしてあまたの御ほうびをたまハりて孝子の名をあらハせしとなり

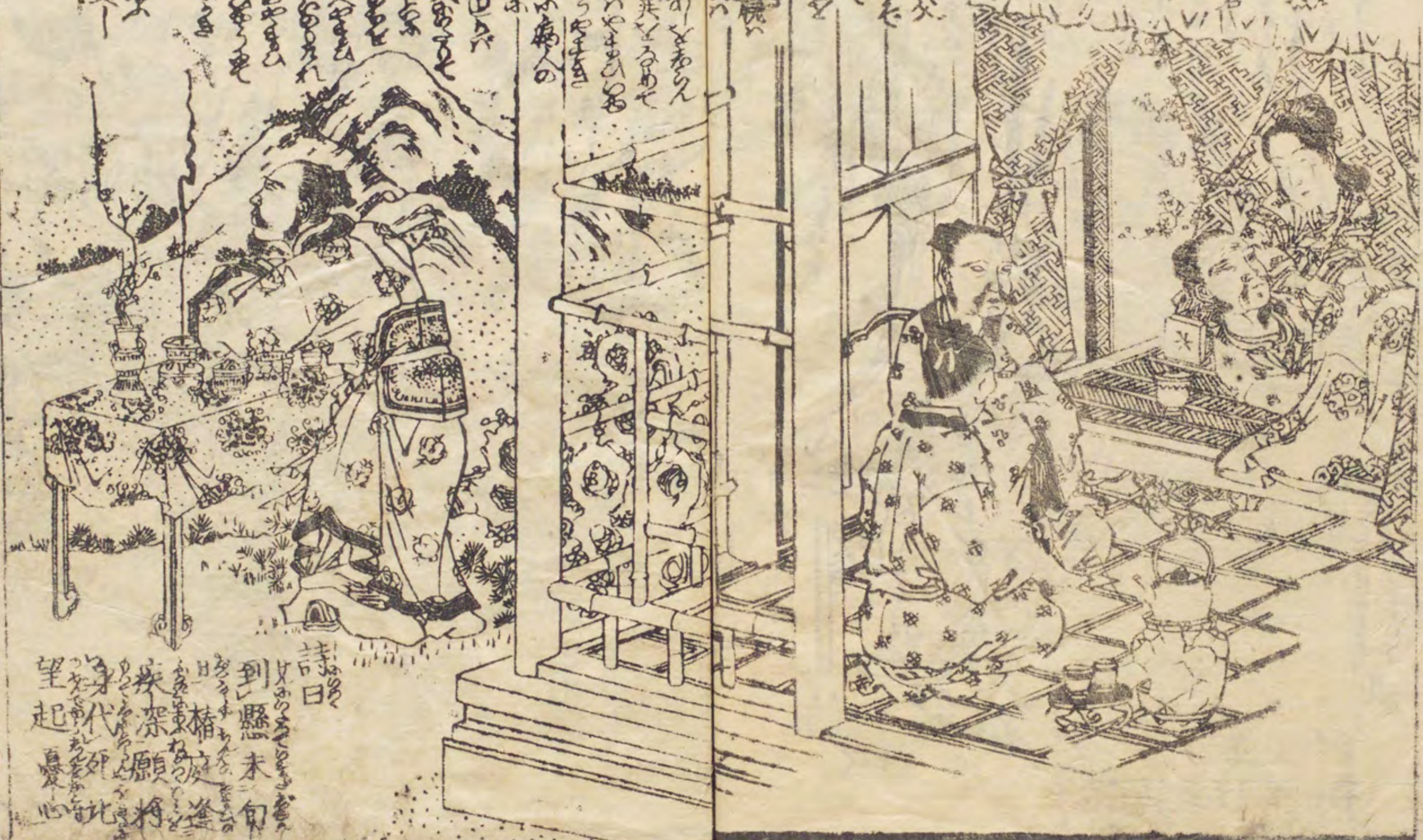


詩曰

冬月温衾
暖炎天扇
枕涼児童
知子職千
古一
黄香

庾黔婁

庾黔婁庾ハ姓黔婁ハ名なり南斉の人にて孱陵ハ所の名なりその所の官人となりて出しが十日たゝざるうち[illegible]さはぎしてそゞろ[illegible]あせ[illegible]出しかば大にふしぎにおもひさだめて父の病かならんと官禄をすてゝ[illegible]へりしが父ハ病の二日めなりしとぞ[illegible]大きにうれひて医師にやまひのよしあしをたづぬるに[illegible]人のやまひ[illegible]病人の[illegible]病のつらさを見て[illegible]とおもはんと病人の糞をなめて[illegible]あまきハ[illegible]にがきハ[illegible]とぞ[illegible]そのあぢハひあまかりければ[illegible]なんぎ[illegible]日夜[illegible]ねがくハ[illegible]父の[illegible]かはり[illegible]八日め[illegible]孝心の[illegible]至極せる天の[illegible]なるべし



詩曰

到レ縣未二旬日一

椿庭遘レ疾深

願將レ身代レ死

北望起二憂心一

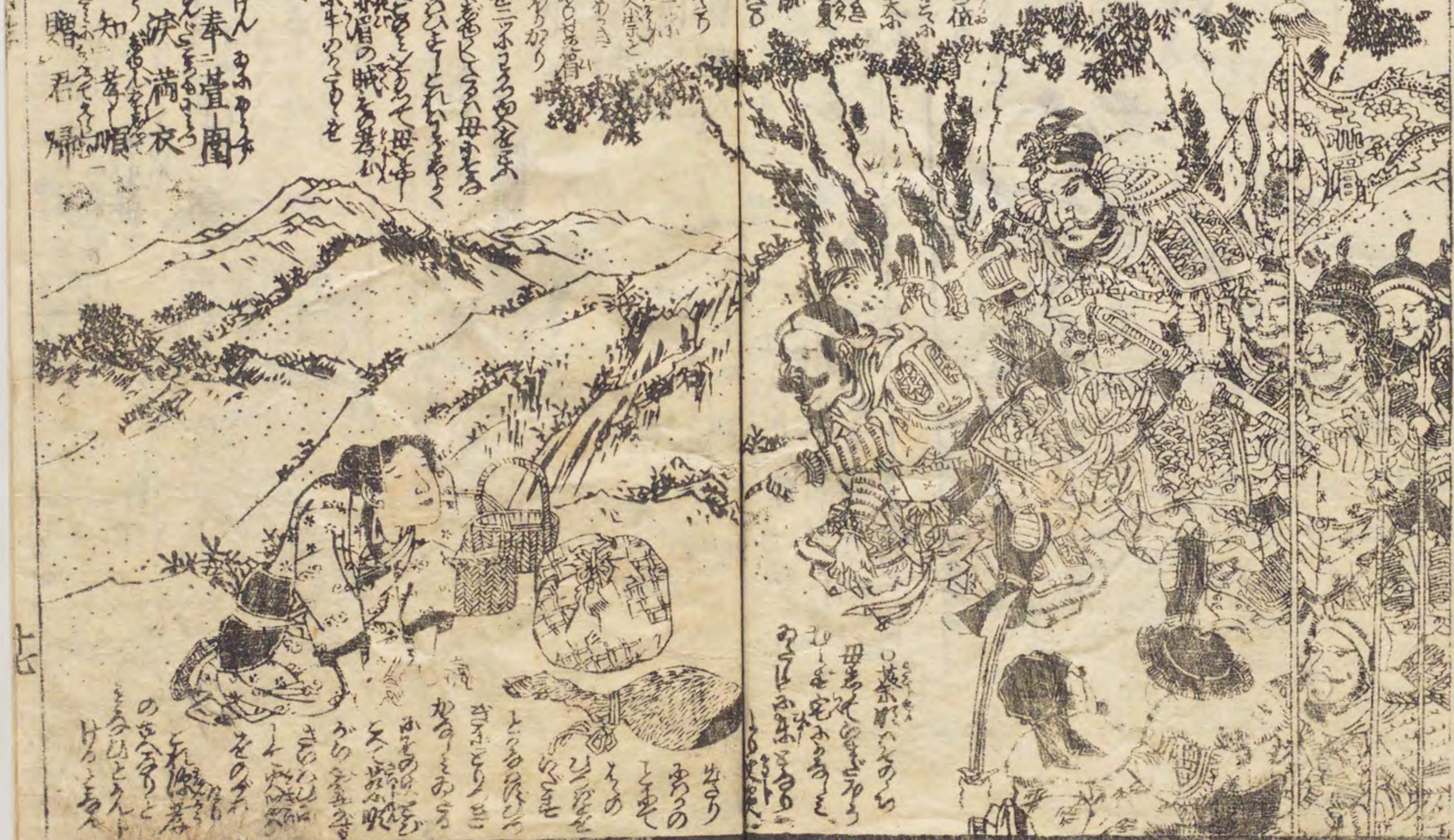
蔡順

漢の蔡順は字を君仲といふ汝南と云ところの人なりをさなくして父におくれ母につかへて孝行なりその元城の王莽と云ものむかし前漢の成帝の時孝元皇后の甥にて王莽と云ものくすを平帝の御世に毒がいし孺子嬰を天子の位にたてほどなくおのれ天子となりて天下大にみだれ天下に[illegible]にわかに[illegible]ところにて人多く[illegible]あつまりて[illegible]飢饉におよび人多くうへて死ぬ

さて蔡順も飢につかれて山に入て桑の椹をとらんとするに二色にありてかへるにある時[illegible]賊蜂起と[illegible]路次にて[illegible]申すばかりなる軍勢あつて其赤眉と云その大将[illegible]とがめかかり蔡順が二色の実を二ッにわけて入るを見て蔡順にむかつて云やうくろく熟したるハ母にすゝむるへんなるあかきハいまだ熟せざれハわがしよくとするぞと申ければ賊もさすがに[illegible]母に[illegible]とて[illegible]赤眉の賊なれど孝をかんじ白米二斗に牛の股一ッをそへてあたへしとぞ

詩曰

黒椹奉萱闈
啼飢涙満衣
赤眉知孝順
牛米贈君帰



○蔡順はそのころ母をやしなひかねけるむしの宅にあるを[illegible]みつけにて木の実をひろひ[illegible]

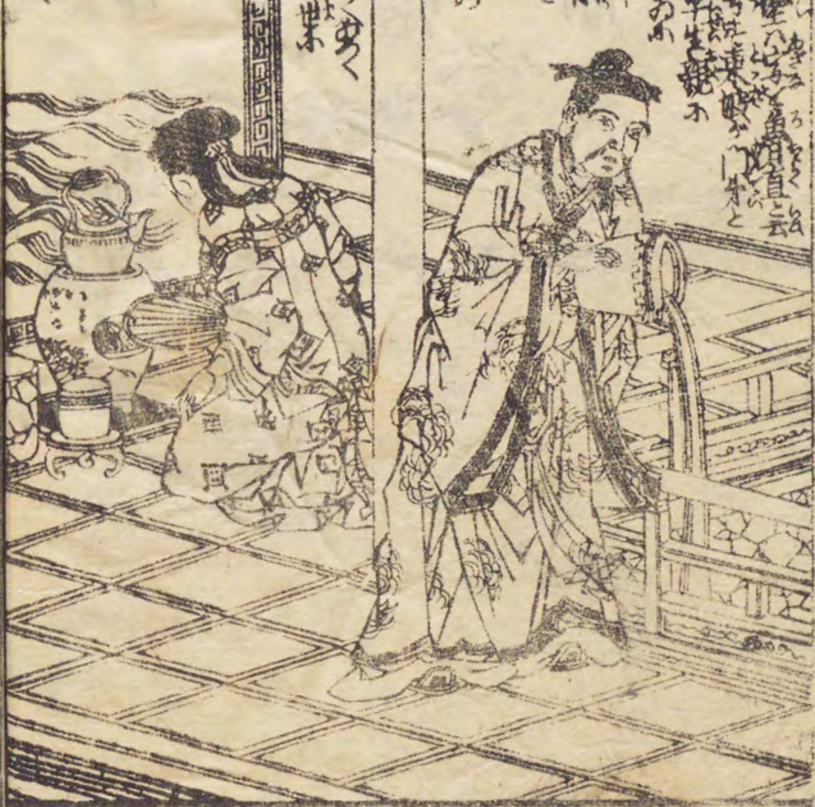
みなりあつめのときてそのひよめをくらせところなりしすこしとりきかまのにまゐるおそのはらだ天に感じがいぜうありさいじゆんは[illegible]そのかれこれ深き孝のゆゑなりと人みなかんじけるとぞ

黄山谷

宋の黄庭堅ハ字を魯直と云山谷道人と号す兄弟あまたありしか官も高く平生親にあり婢妾ふ侍しつかへて孝ありその身たかき位あるふのぼりつまもありあまたのめしつかひ人もあれどもみづから母の大小便のうつはものを人の手をからずみづからその日ごとにあらひ平生孝する事おやにつかへるのみちをつくさずといふことなしよろづにおこたりなかりし其孝行天理にかなひしるしあらはれ後に太史官といへる位にのぼり博学ハ世にまれにこそあれ

詩曰

貴顕聞天下
平生孝事親
汲水滌溺器
婢妾豈無人

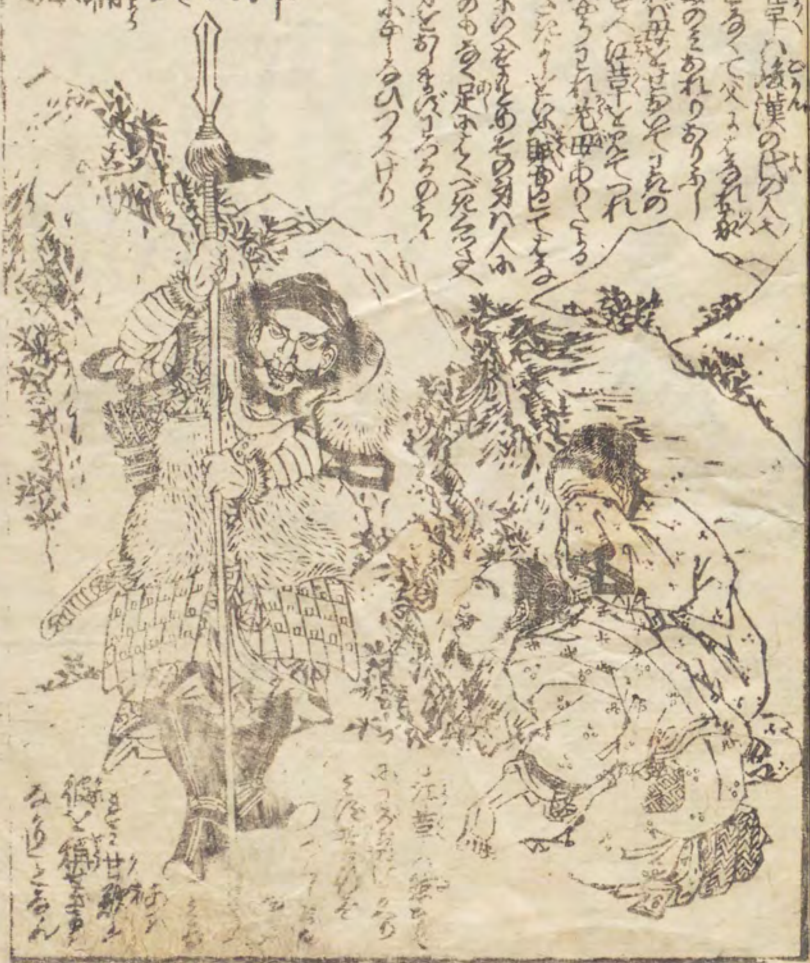


江革

江革ハ後漢の代の人也おさなくて父におくれければ貧にしてひとり母のみありけりおりふし乱世の代となりければ母をせおひてよその国に逃ゆく道にて盗人江革をとらへてつれゆかんとすれば母への事をかたり老母ありとなげきけるかなしみければ賊も江革が孝心に感じてゆるしけり下邳と云所にゆきてその身は人にやとはれ身にまかせ母のものをも足ぬことなくなれどもおやの身にあまるほどのせんとなりてもとめひとつくしけり

詩曰

負母迯危難
究途賊犯頻
哀告倶獲免
傭力以供親



江革ハ後に
みつからかなしみけり
ちからにあまりそ
ことに世の鑑
後世と称せられ
なりたるなり

仲由

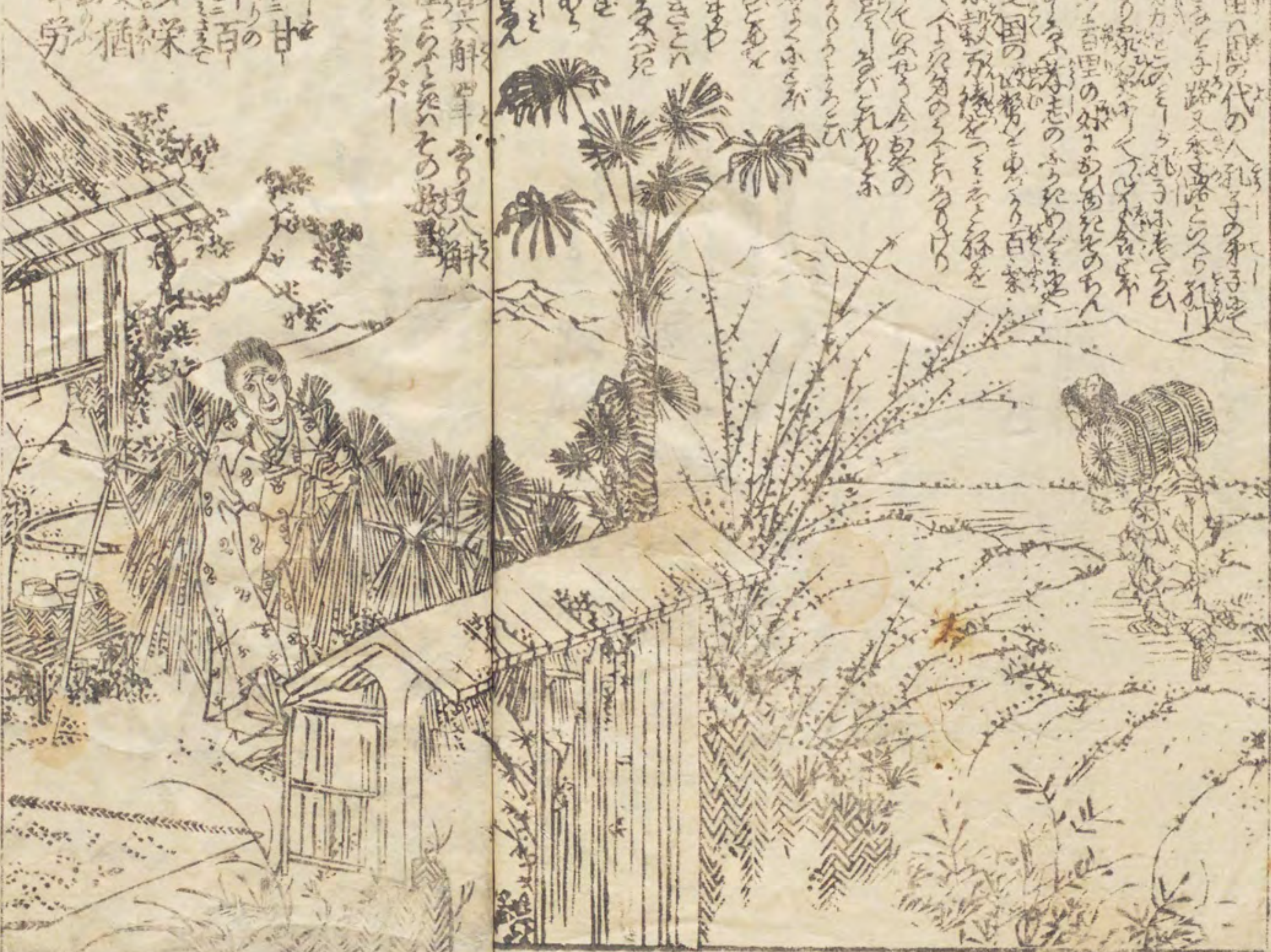
仲由ハ周の代の人孔子の弟子にて あざなを子路又季路とも云ふ[illegible]わかきころまでハ[illegible]先非をあらため[illegible]あかざのたぐひを食して米を百里の外よりおひきたりて親をやしなひけり[illegible]母とかしづき孝志のふかきこと[illegible]親死して後楚国の[illegible]大将となりて百乗の車をしたがへ米穀万鍾をたくはへ[illegible]子路たんじていはく今[illegible]いのちありて孝をつくさばやと思へども[illegible]あらましともの[illegible]こそ[illegible]これ[illegible]今[illegible]えのこのところ[illegible]

○鍾とハ斛目六斛四斗なり又八斛とも云 万鍾といふときハその数広大なることをいふべし

詩曰

負米供甘旨
寧辭百里遥
身栄親已没
猶意旧劬労

此草紙ハ異朝の孝行に勝れたる人を文章にうつし詩一絶を誌して二十四章とし孝行録と題し古く世に行るるものなるを其本文を省略し稚き女児のために綴ところのものなり 俗に二十四孝と云ものあれども其説に異同あり 江革と仲由とを省て別に張孝兄弟田真兄弟の事をのせたるもあり 倶に行れて何れか是非をさだめがたし 故に巻末にあらはして二十四孝の別伝とするものぞ

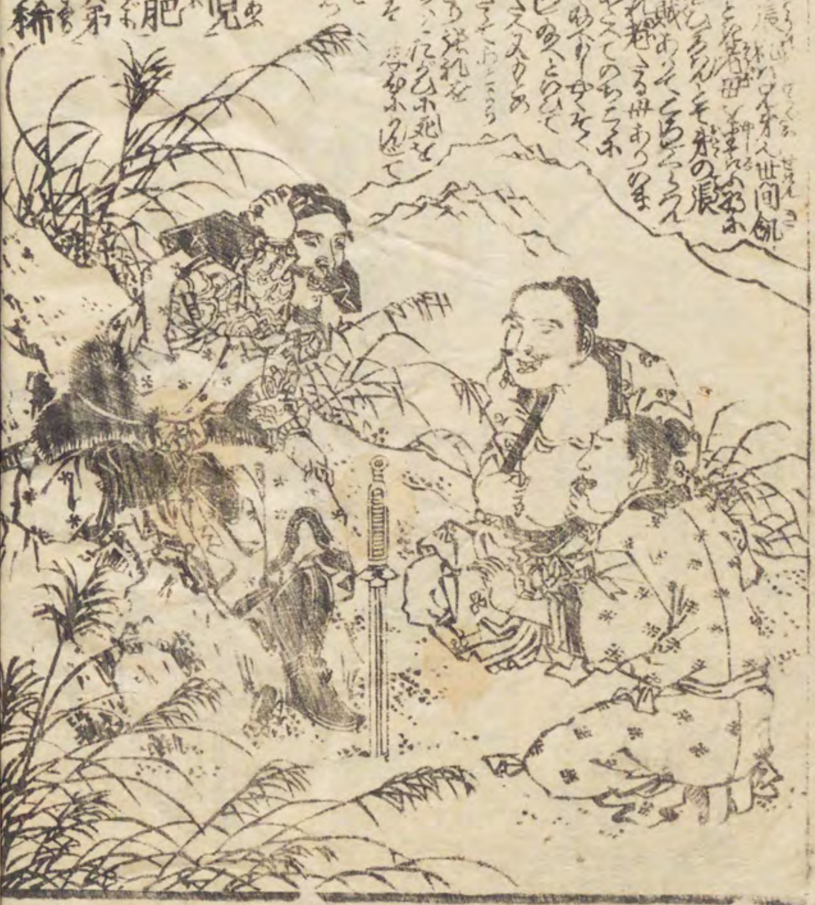


張孝 張禮

張孝張禮ハ兄弟なり世間飢饉のとし老母を養ひかね[illegible]れ山に至るに飢たる賊あつて張禮をころさんとす[illegible]老母あり[illegible]食をあたへて[illegible]薪をもちかへりて母にあたへ[illegible]ふたゝびきたるべし[illegible]やくそくして[illegible]母に[illegible]をあたへて又かの山にゆく兄の張孝これを[illegible]山にゆきたれハ[illegible]張禮をたすけよ[illegible]二人ともに死をあらそひければ[illegible]二人を免し米二石塩一駄をあたへ[illegible]

詩曰

偶値緑林兒
代烹云瘦肥
人皆有兄弟
張氏古今稀

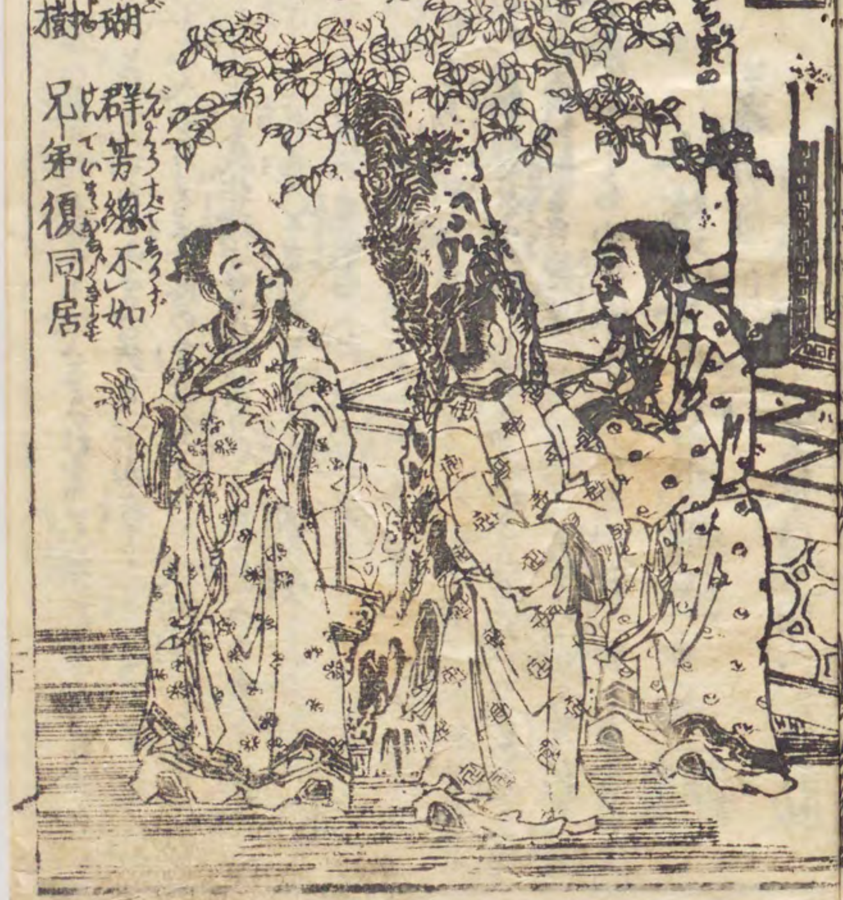


田真 田廣 田慶

ハ三人兄弟なり親におくれてのち家の財宝を三つにわけとりけり[illegible]紫荊樹[illegible]木あり此木一本を三つに分てきらんとおもひて[illegible]その夜[illegible]紫荊樹かれにけり兄弟三人[illegible]

詩曰

海底紫珊瑚
春風花満樹
群芳總不如
兄弟復同居



前にあるを張孝張禮は蔡順が其人に代らんとせし兄弟死をあらそふ事をのべて孝の志篤し其義を稱するにたるゆへ二十四章と省ても可ならん宜田真田廣田慶の兄弟三人までも孝志の貞にあらずや双親没して后家財を三人に分たんと云甚非義非禮なるは愚の甚しきものなりまでに惣領の乃田真なり一人の弟に示して各身を立家をつぎ永く繁栄して先祖の祭りをなさへ死に心を用ざるは更に孝道の立所多く利欲に耽ものにして二十四章にならへ入れるものにあらずされども古よりならび來るものなれば有然改るにおよばず倶に二十六章となし東見記に載とある毛利拙斎の廿四章并孝行録廿四孝評松會堂が廿四孝諺解其他板行の勧孝書あれば彼を取是を捨るにもあらず只児女のなるに篤孝の教を元立とするものなれば勧善懲悪の趣意としてすべからく務て孝行の道を守りのぞべしと児女衆へかゝるうちに絵双帋となして此仰の一助とならんものなり

東都　一筆庵英泉補綴并画

書肆　芝神明前三島町
甘泉堂　和泉屋市兵衛版